

# 時代潮流・市民意見聴取結果等について

令和7年3月17日  
第2回岡山市基本政策審議会資料

## 1. 人口

①将来推計人口	.....	P3
②岡山市の人口動態	.....	P4
③岡山市の自然動態	.....	P7
④岡山市の社会動態	.....	P11
⑤岡山市の外国人の人口動態	.....	P15

## 2. 時代潮流

①少子高齢化・人口減少の加速	.....	P17
②ウェルビーイングへの関心の高まり	.....	P17
③デジタル技術の急速な進展	.....	P18
④グローバル化の進展	.....	P18
⑤持続可能な環境の保全	.....	P18
⑥大規模自然災害への対応	.....	P18

## 3. 市の特性

①岡山市の特性	.....	P19
②指定都市比較	.....	P20

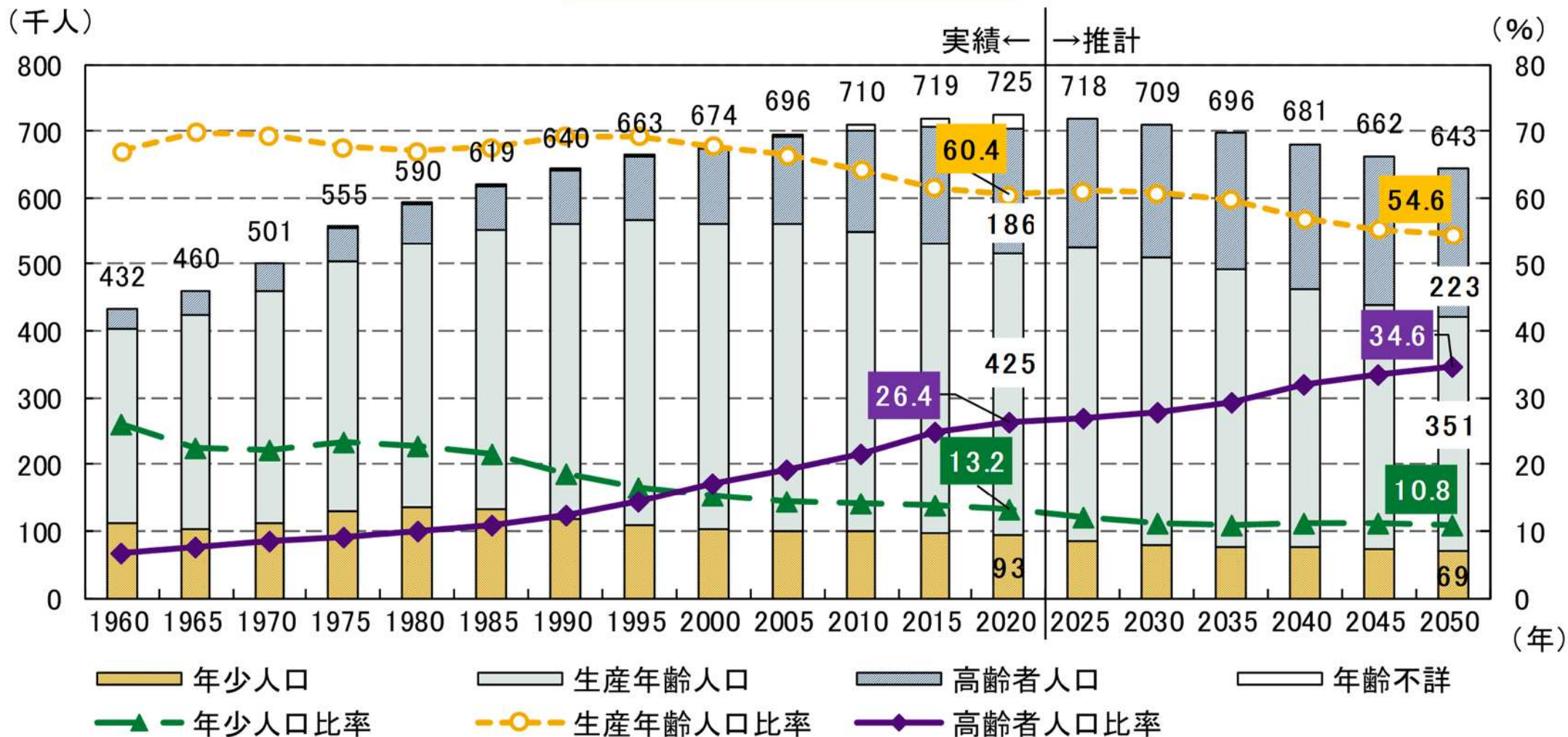
## 4. 市民意見聴取結果等

①ワークショップ結果	.....	P21
②小中学生アンケート結果	.....	P24
③岡山市市民意識調査の分析	.....	P27

# 1. 人口 ① 将来推計人口

○岡山市の人口はこれまで一貫して増加してきたが、2020年頃をピークに減少局面に入っており、2050年には約64万人となることを見込まれている。  
 ○年齢3区分別の比率を2020年と2050年で比較すると、生産年齢人口比率が5.8ポイント低下する一方で、高齢者人口比率は8.2ポイント上昇し、高齢化が急速に進行する。年少人口比率は2035年頃まで低下するものの、以降は概ね横ばいとなる。

岡山市における人口の推移と将来の見通し

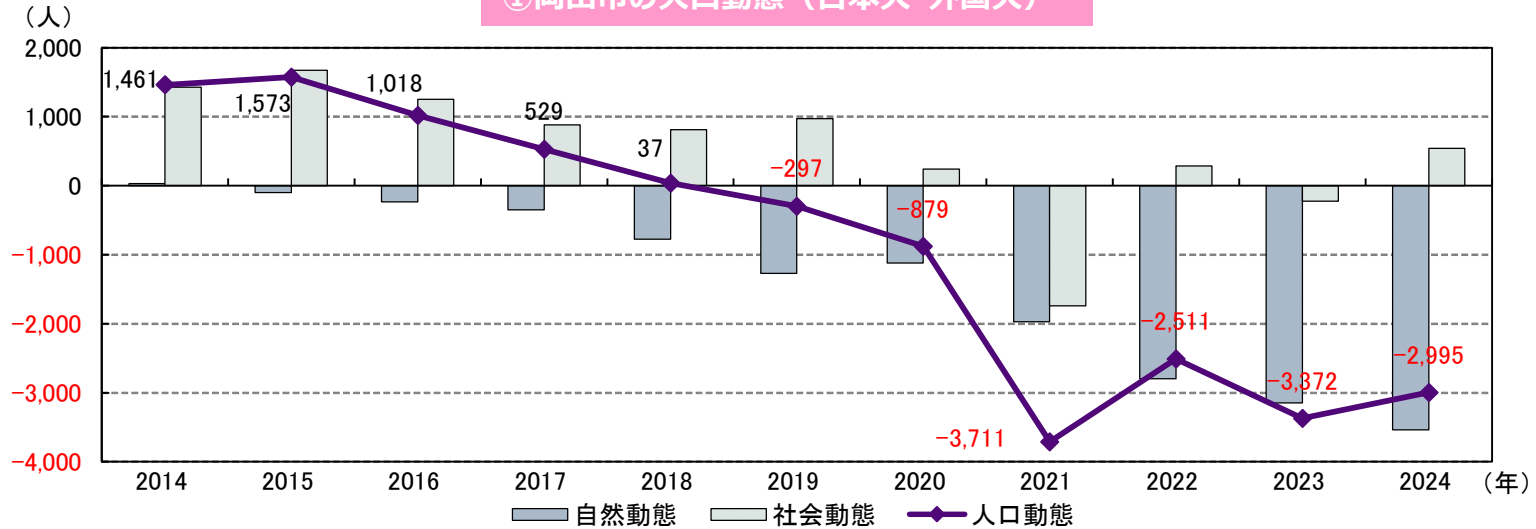


(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」から作成

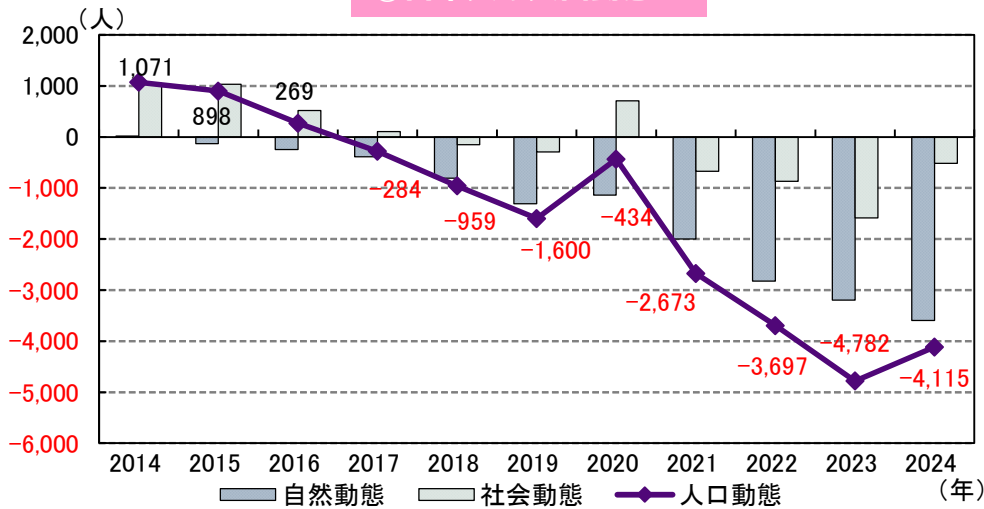
# 1. 人口 ②岡山市の人口動態 ①岡山市の人口動態の推移（日本人・外国人）

- 岡山市の人口動態を住民基本台帳ベースで見ると、近年人口減少が拡大している。
- 日本人をみると、人口減少の拡大の主な要因は自然減の拡大であるが、2018年以降、2020年を除き社会減の傾向が続いている。
- 外国人をみると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた2020年、2021年は落ち込んだものの、2022年には大きく回復している。

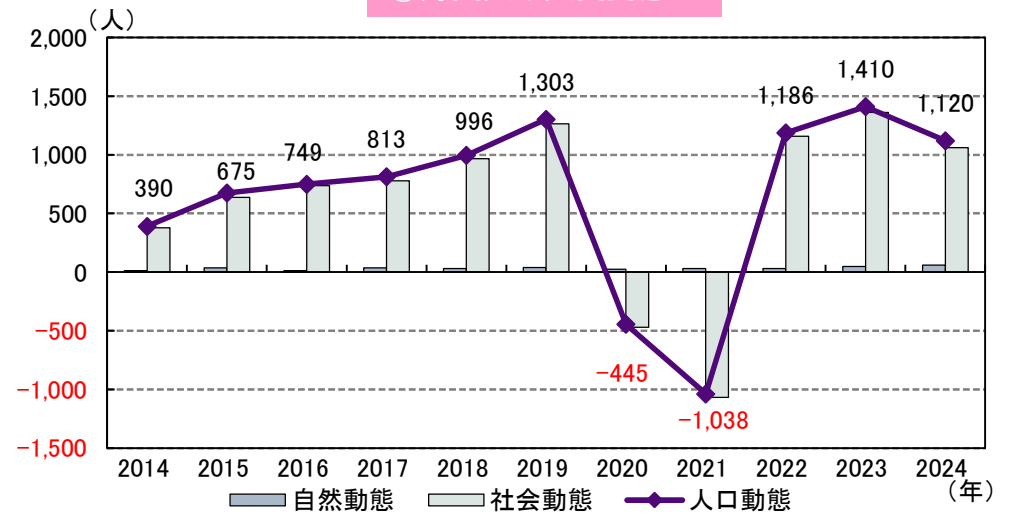
①岡山市の人口動態（日本人・外国人）



②日本人の人口動態



③外国人の人口動態



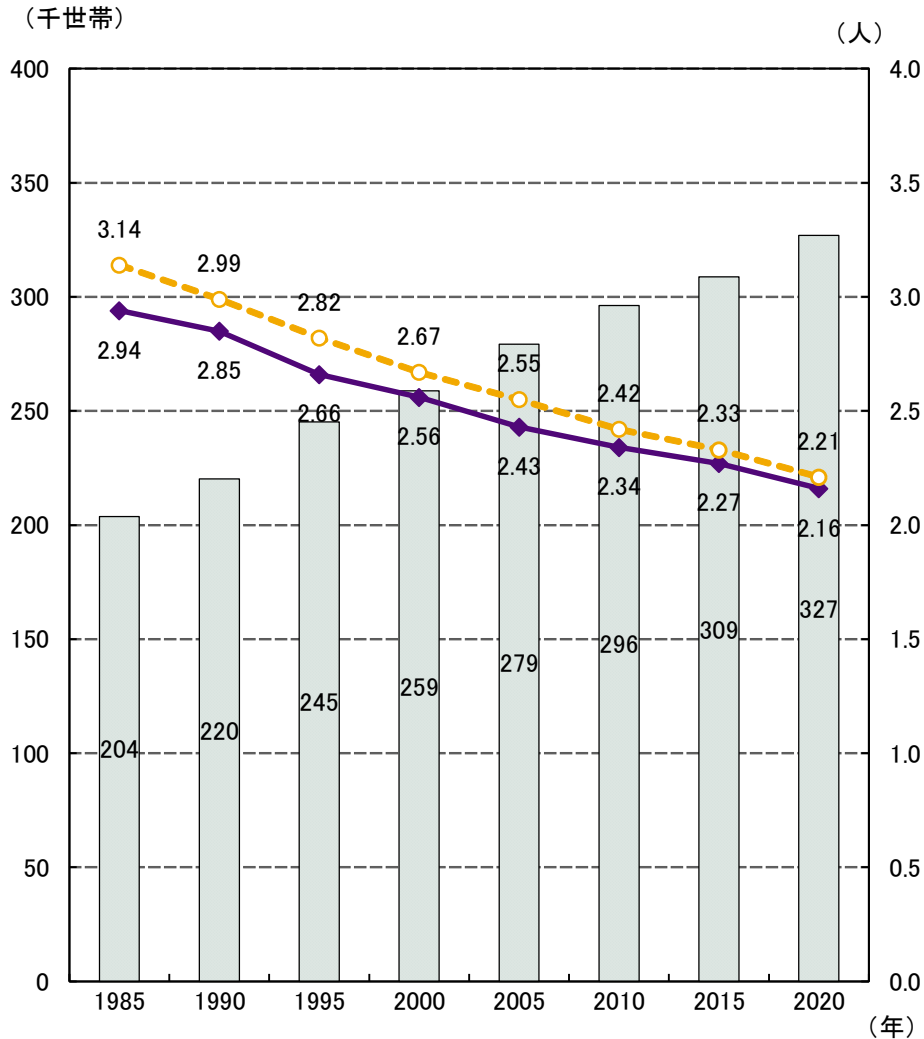
(資料) 岡山県毎月流動人口調査結果から作成

※各年の数値は1月から12月までの値

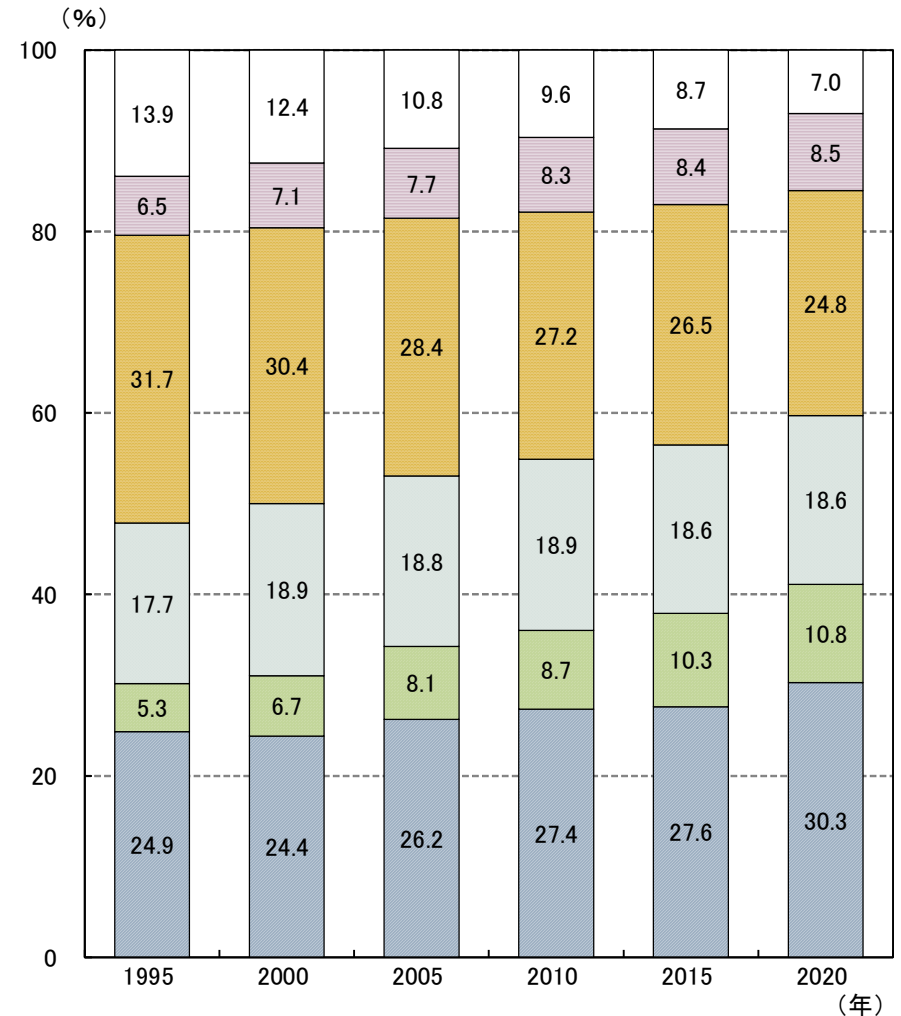
# 1. 人口 ②岡山市の人口動態 ②岡山市の世帯数の推移

- 岡山市の世帯数は増加傾向であり、単独世帯の割合の増加が主な理由となっている。1世帯あたり人員は減少傾向にある。
- 家族類型別世帯数構成比の推移をみると、単独世帯の割合が上昇しており、特に高齢単独世帯の割合の上昇が顕著である。また、夫婦と子供から成る世帯の割合が下降傾向にあるのに対し、1人親世帯（1人親と子供から成る世帯）の割合は上昇傾向にある。

## 世帯数・1世帯あたり人員の推移



## 家族類型別構成比



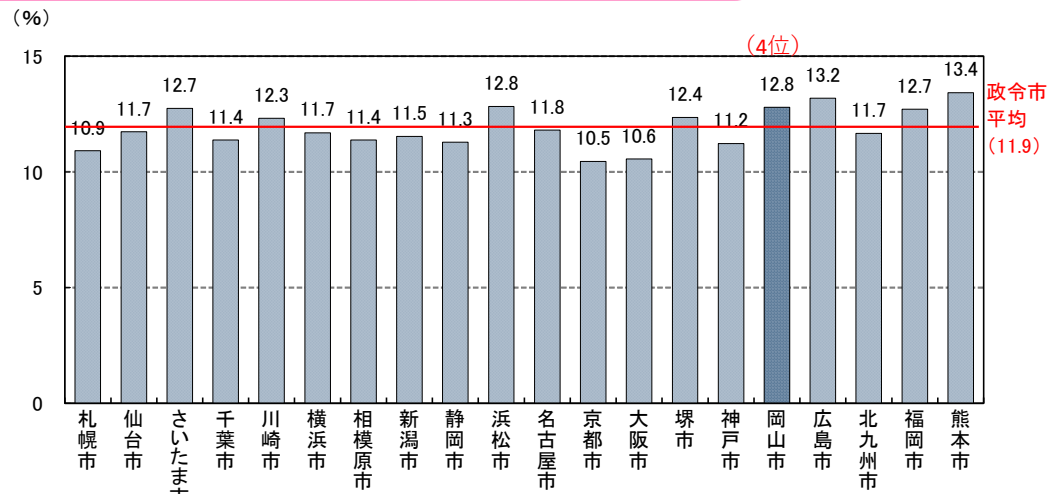
(資料) 総務省「国勢調査」

- 単独世帯(高齢単独除く)
- 高齢単独世帯
- 夫婦のみ世帯
- 夫婦と子供から成る世帯
- 1人親と子供から成る世帯
- その他の一般世帯

# 1. 人口 ②岡山市の人口動態 ③年齢層別人口割合（指定都市比較）

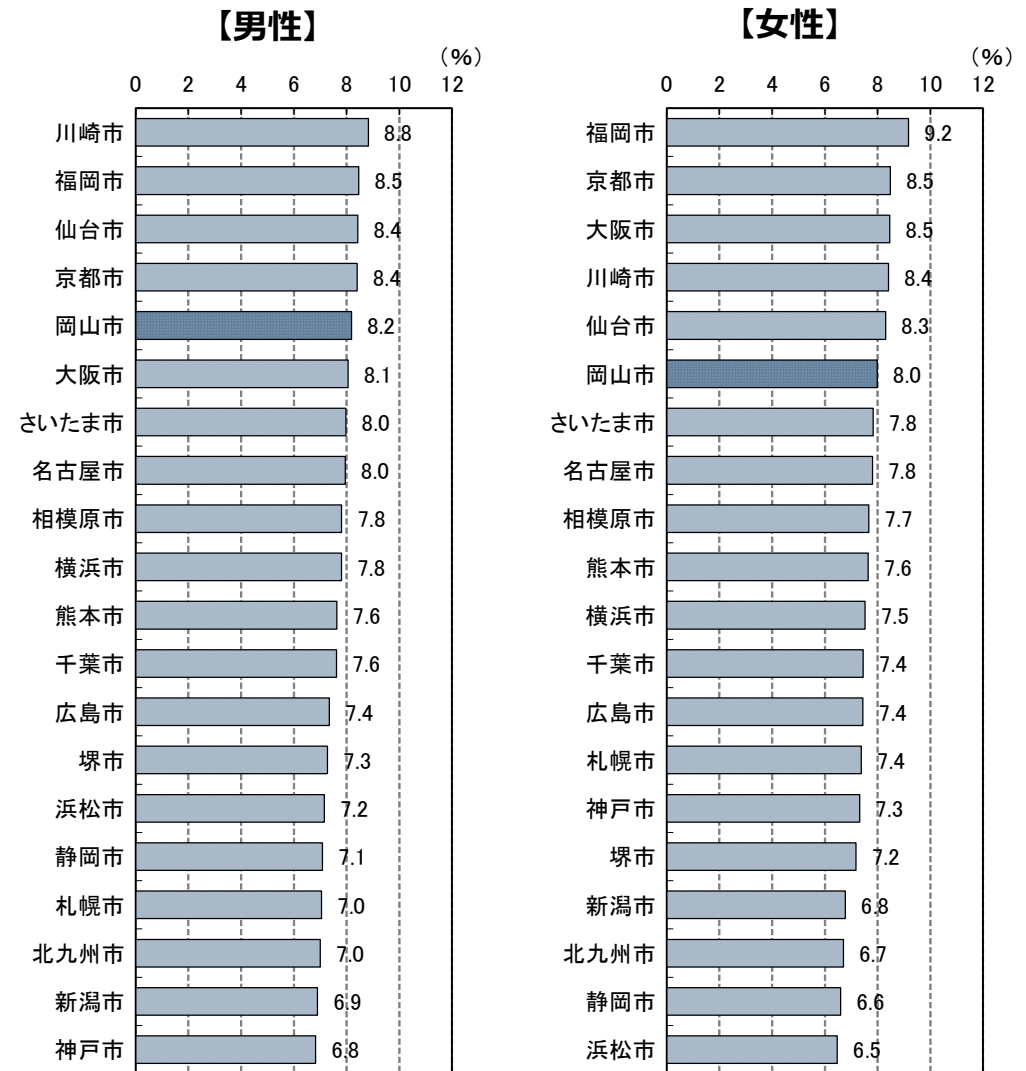
- 岡山市の0～14歳人口及び15～29歳人口の割合は、いずれも指定都市の平均を上回っている。指定都市と比較した際の0～14歳人口割合の高さは、出生率の高さや子育て世帯の流入の多さ、15～29歳人口割合の高さは進学や就職による若年層の流入を示しているものと考えられる。
- 15～29歳人口の割合について男女別にみると、岡山市では、男女ともに概ね同じ割合となっている。

## 0～14歳人口割合（2020年）



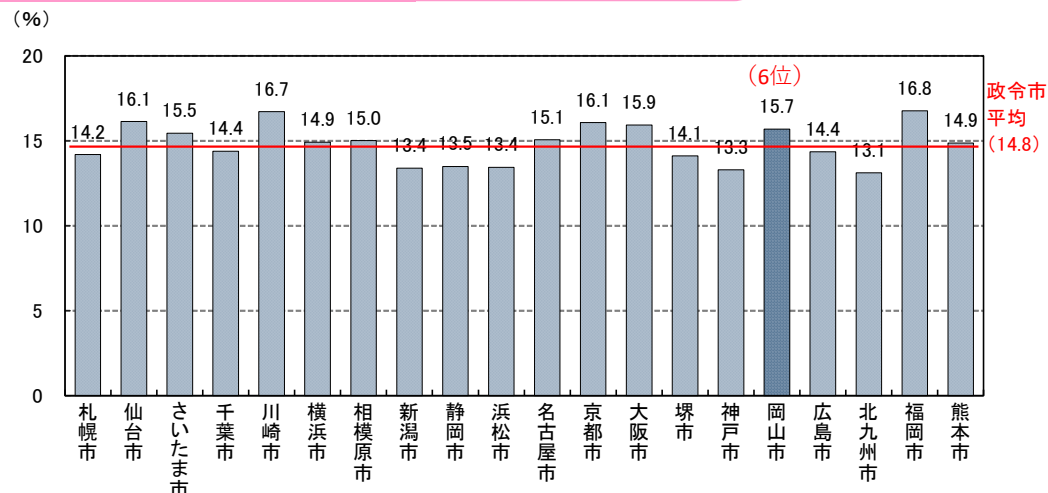
(注) 年齢「不詳」を除いて算出 (資料) 総務省「令和2年国勢調査」

## 男女別15～29歳人口割合（2020年）



(注) 年齢「不詳」を除いて算出 (資料) 総務省「令和2年国勢調査」

## 15～29歳人口割合（2020年）

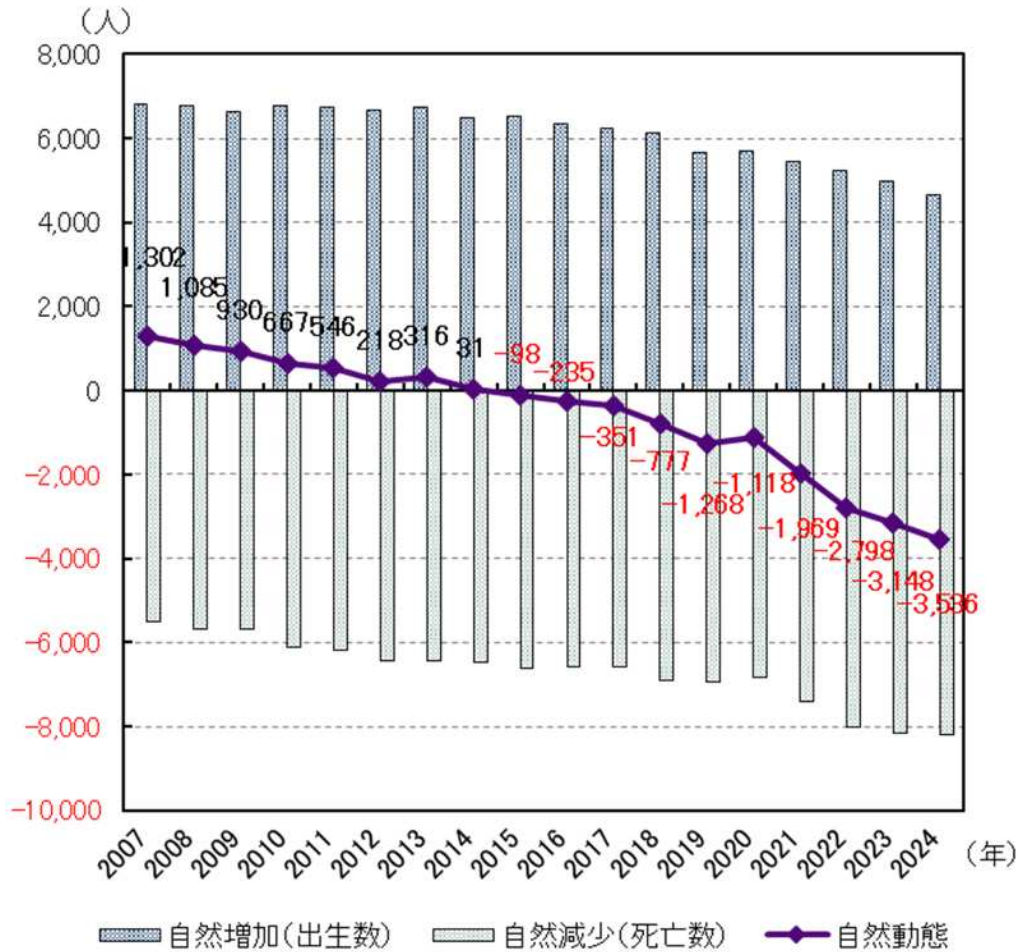


(注) 年齢「不詳」を除いて算出 (資料) 総務省「令和2年国勢調査」

# 1. 人口 ③岡山市の自然動態 ①岡山市の自然動態の推移

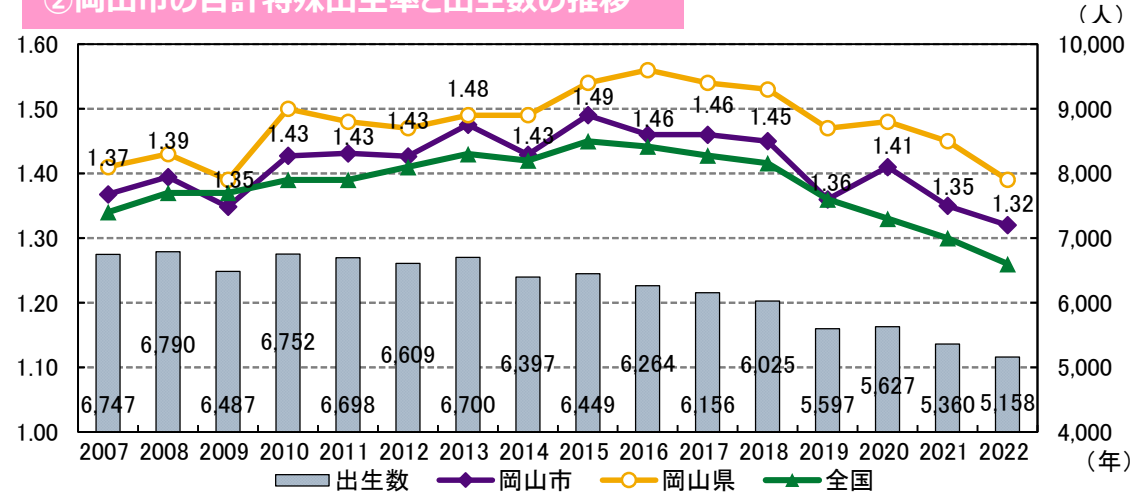
- 岡山市の自然動態をみると、2015年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状況にある。少子高齢化により、出生数の減少と死亡数の増加の傾向は今後も拡大することが見込まれる。
- 岡山市の合計特殊出生率は、一部年次を除いて全国を上回る水準で推移している。一方で、岡山県を下回る状況が2007年以降続いている。
- 指定都市で比較すると、2022年では、4番目に合計特殊出生率が高くなっている。

## ①岡山市の自然動態



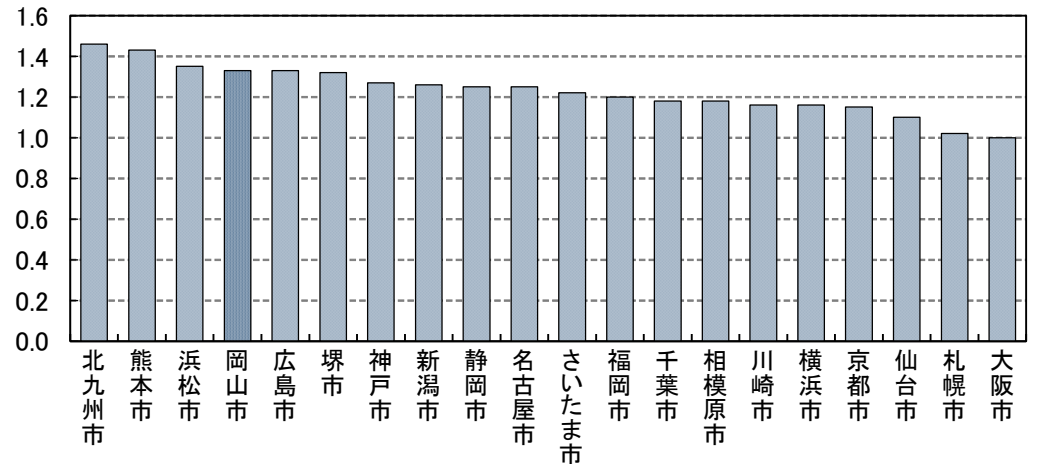
(出典) 岡山県「岡山県人口の動き－岡山県毎月流動人口調査結果から－」  
 ※各年の数値は1月から12月までの値

## ②岡山市の合計特殊出生率と出生数の推移



(出典) : 岡山県・岡山市合計特殊出生率：岡山県  
 岡山市出生数・全国合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計」

## ③合計特殊出生率 (2022年) (指定都市比較)



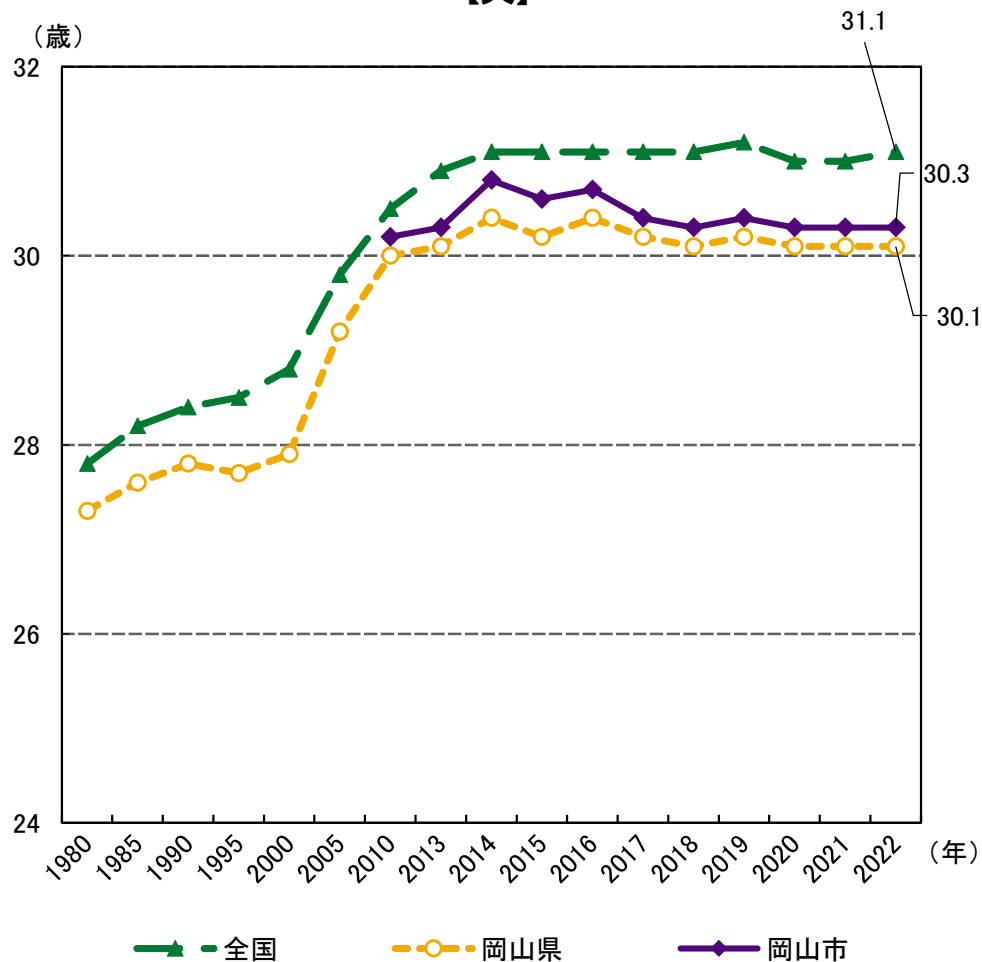
(出典) 大都市統計協議会「大都市比較統計年表」

# 1. 人口 ③岡山市の自然動態 ②岡山市の平均初婚年齢の推移

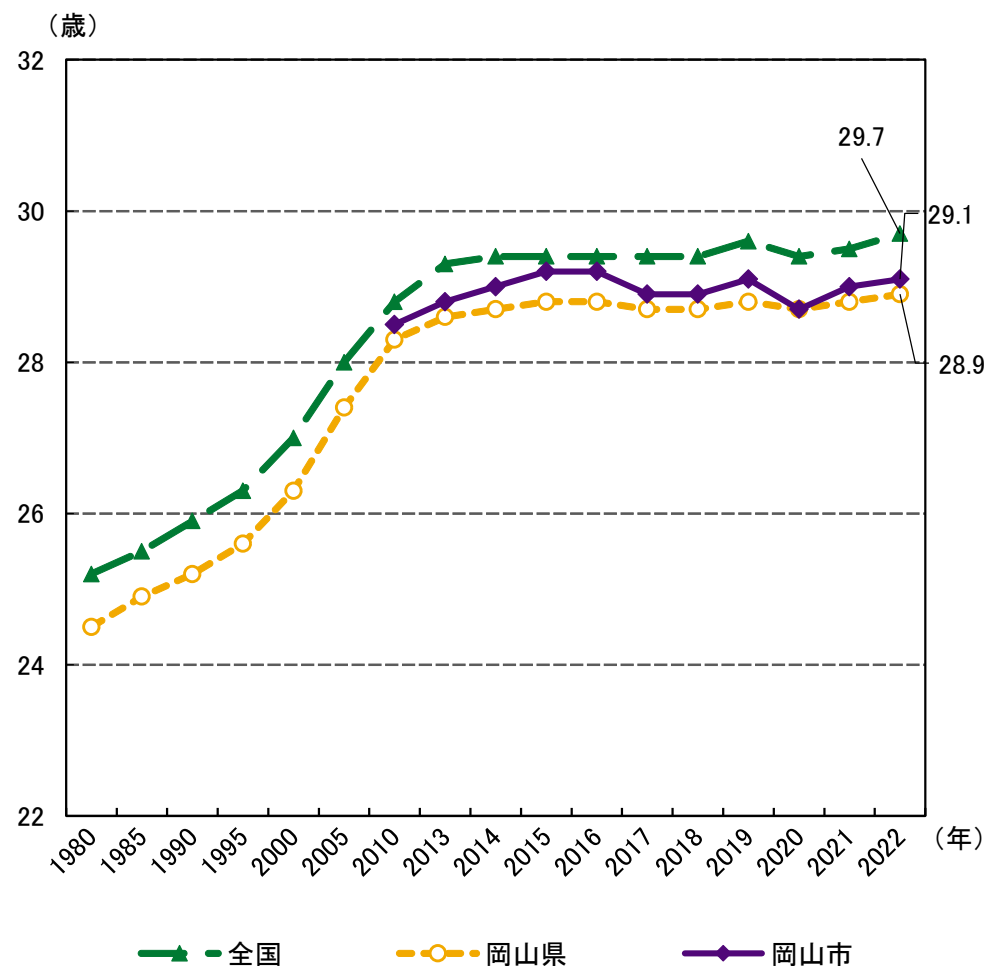
○全国では、男女ともに2000年代後半まで上昇傾向にあり、晩婚化の進行がみられたが、以降は概ね横ばいで推移している。  
 ○2022年の岡山市の平均初婚年齢は、男性（夫）30.3歳、女性（妻）29.1歳であり、全国よりも低く、岡山県よりもやや高い状況で推移している。

## 平均初婚年齢の推移

【夫】



【妻】



(注) 1980～2010年は5年間隔、2013年以降は各年のデータ。  
 (資料) 厚生労働省「人口動態統計」

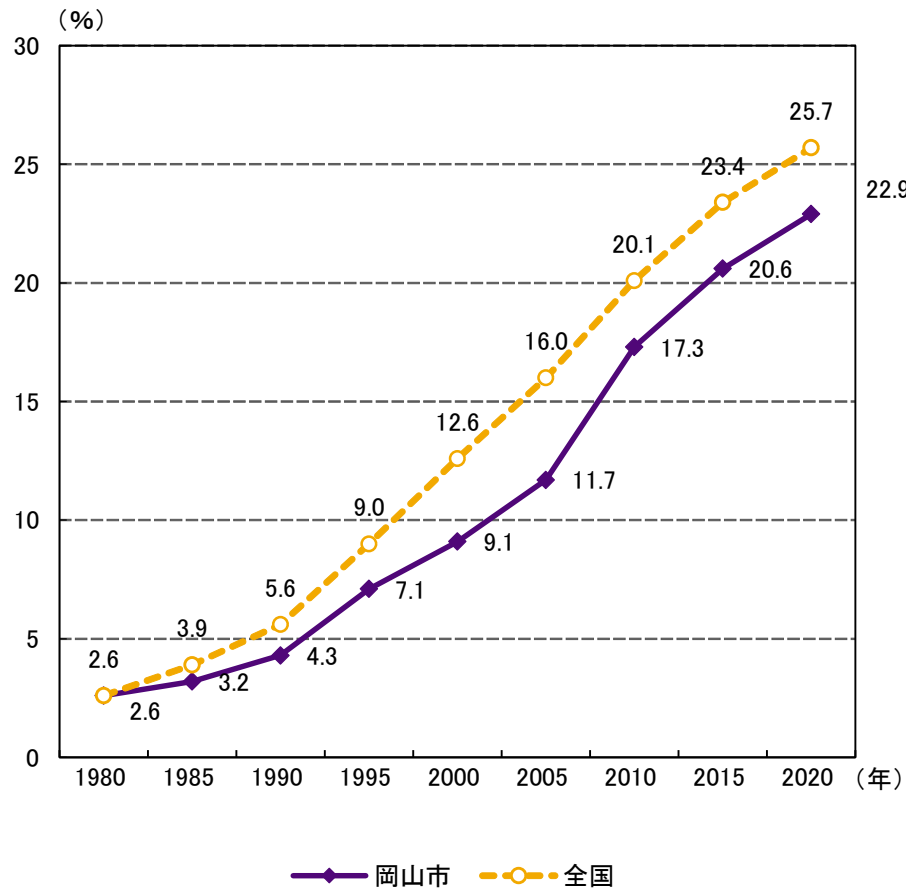


# 1. 人口 ③岡山市の自然動態 ③岡山市の生涯未婚率の推移

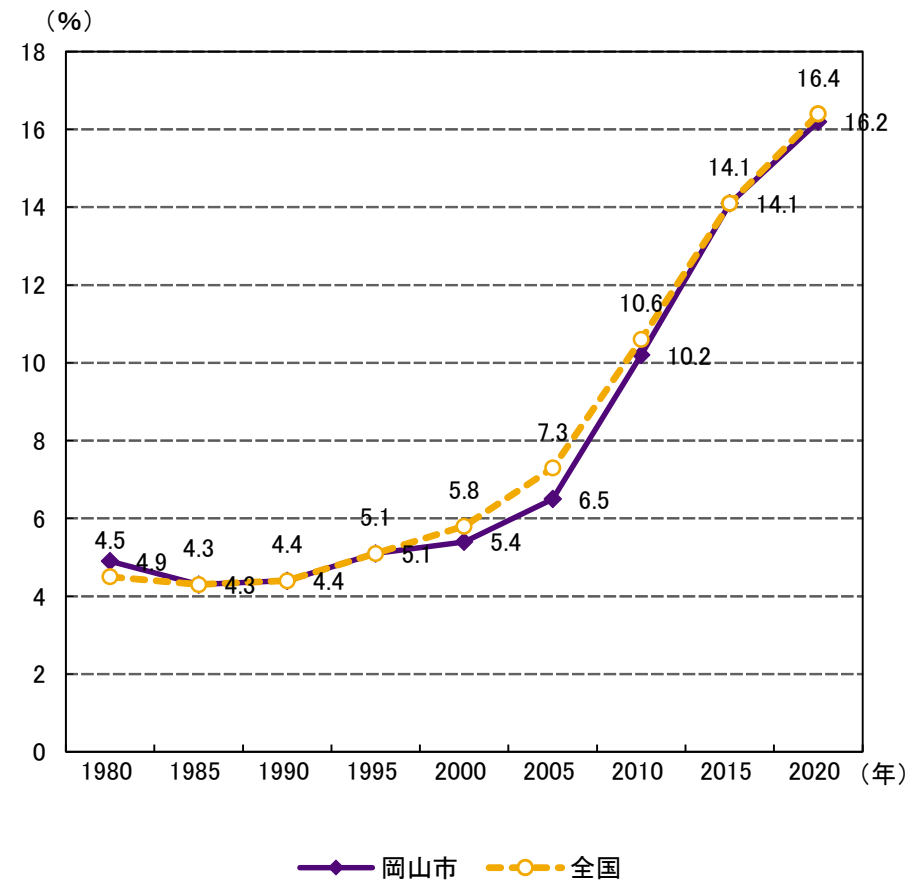
- 生涯未婚率は男女ともに上昇傾向にある。岡山市の女性の生涯未婚率は全国と概ね同じ水準となっているが、男性については、全国を下回っている。
- わが国では、有配偶出生（配偶者のいる女性の出生）が出生の大半を占めるため、生涯未婚率が上昇を続けることで、有配偶者数が減少し、結果として、今後も出生率が低下することが見込まれる。

## 生涯未婚率の推移

【男性】



【女性】

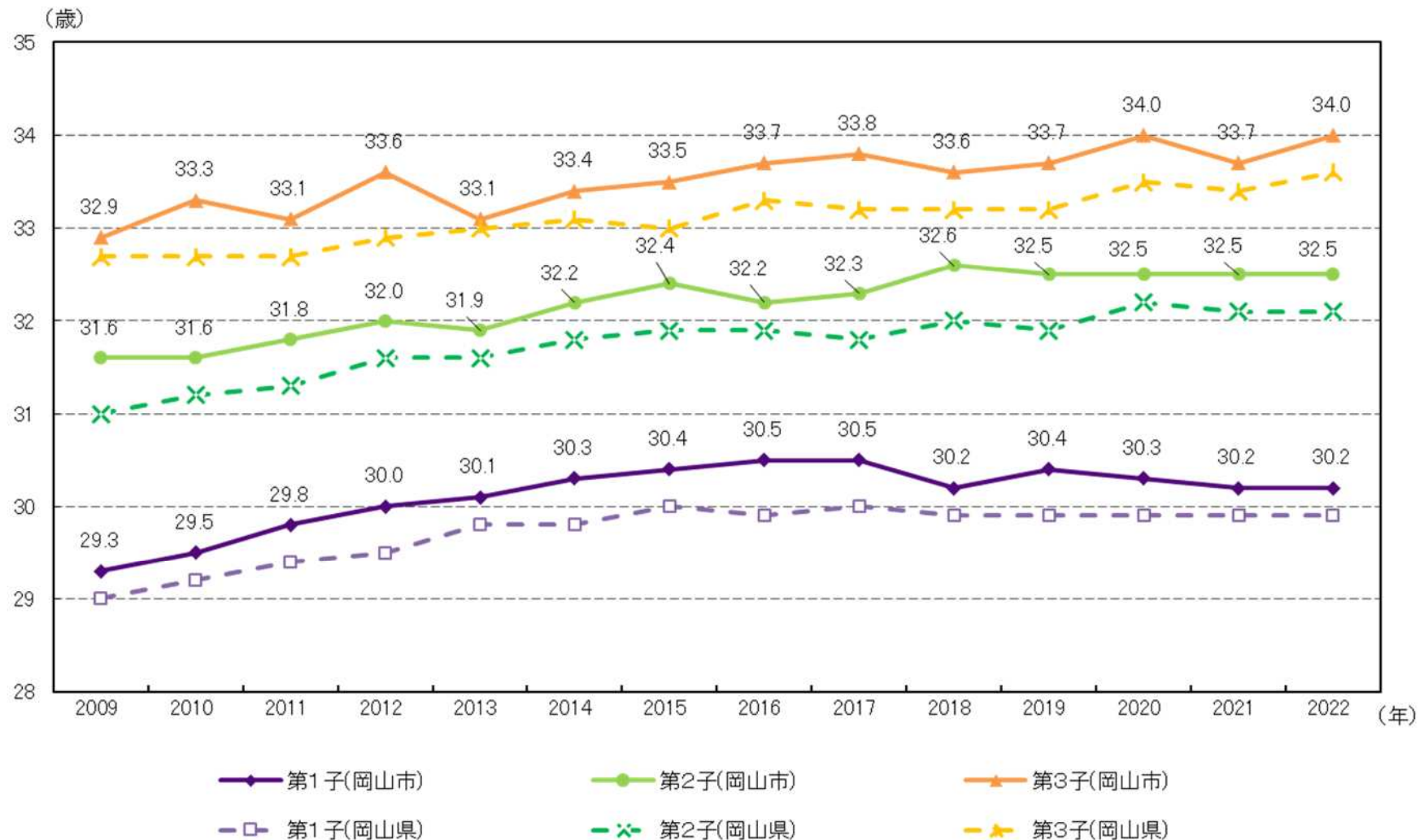


(注) 生涯未婚率とは、50歳時の未婚率であり、45～49歳と50～54歳の未婚率の単純平均より算出。  
 (資料) 総務省「国勢調査」

# 1. 人口 ③岡山市の自然動態 ④出生時の母の平均年齢の推移

○岡山市の出生順位別の出生時の母の平均年齢は、いずれも岡山県を上回る水準で推移している。  
 ○第1子は、2017年の30.5歳をピークとして、以降は30.3歳前後を推移している。第2子は、2018年の32.6歳をピークとして、以降は32.5歳前後を推移している。一方で、第3子については、2018年以降もやや上昇傾向で推移している。

## 出生時の母の平均年齢の推移



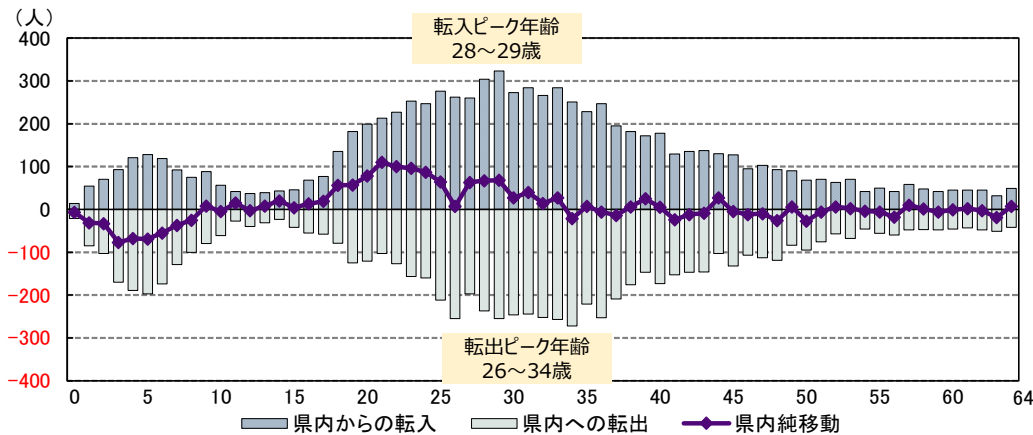
(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

# 1. 人口 ④岡山市の社会動態 ①年齢・男女別純移動の状況

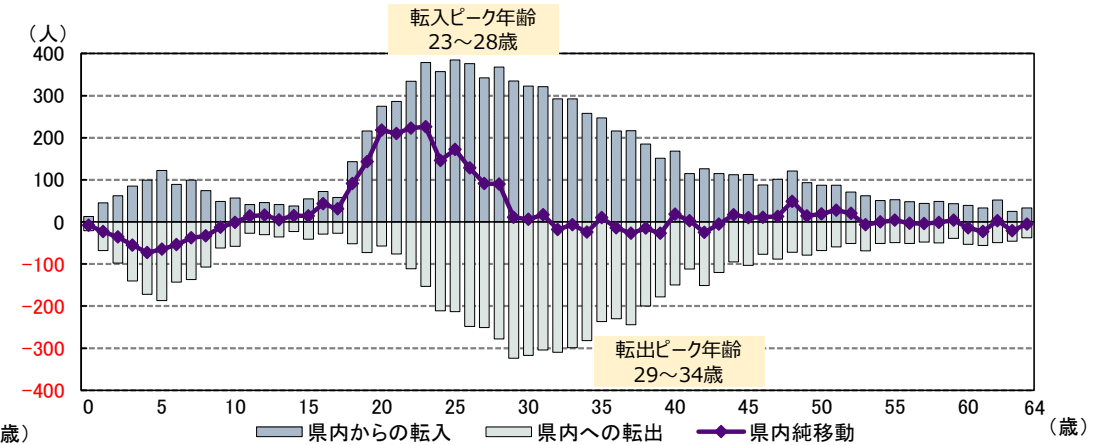
- 岡山市と岡山県内との間の社会動態をみると、男女ともに0～10歳の県内への転出超過が大きくなっている。また、10歳代後半から20歳代前半にかけての転入超過が他の年齢層と比べて特に大きくなっており、中でも女性においてこの傾向が顕著である。
- 県外との間の社会動態をみると、男女ともに10歳代後半から22、23歳にかけて転入超過を示し、24、25歳から30歳前後にかけて転出超過を示している。大学進学等により20歳前後で県外から多く転入し、就職を機に多くの人転出していると考えられる。

## ①岡山市の年齢・男女別転出入の状況（県内）

【男性】

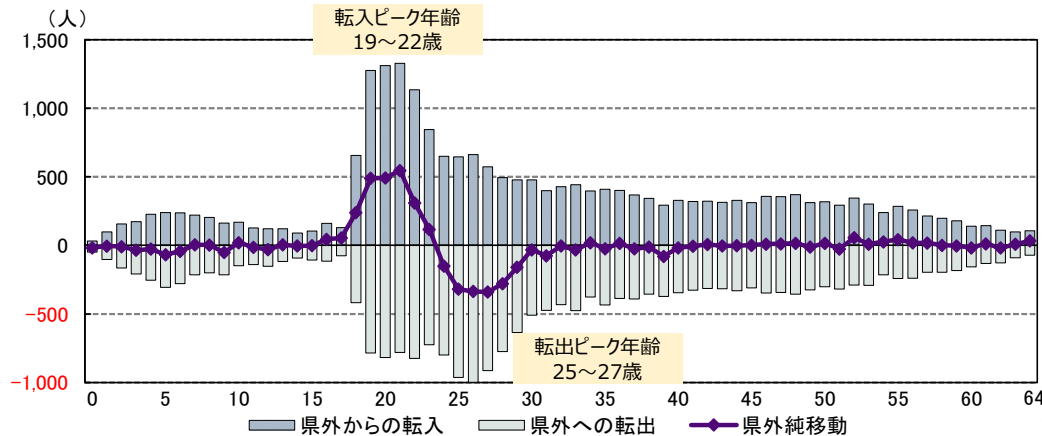


【女性】

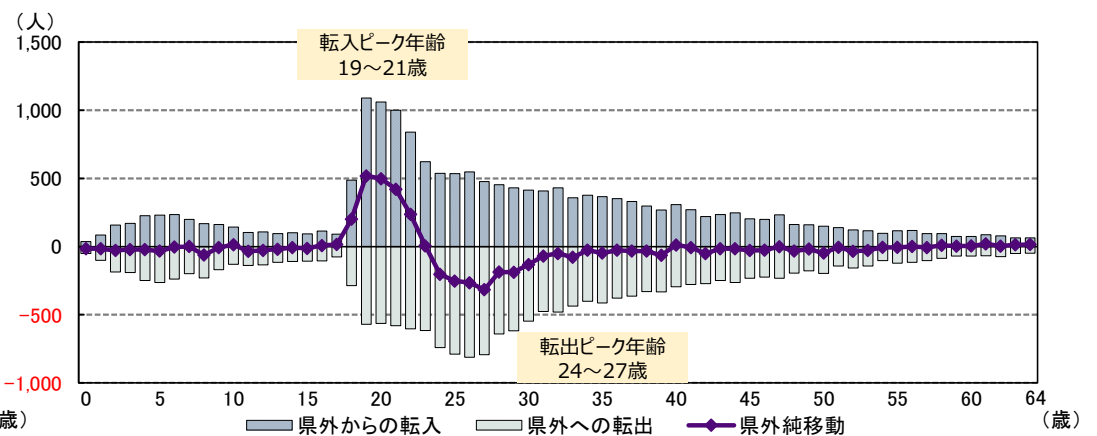


## ②岡山市の年齢・男女別転出入の状況（県外）

【男性】



【女性】



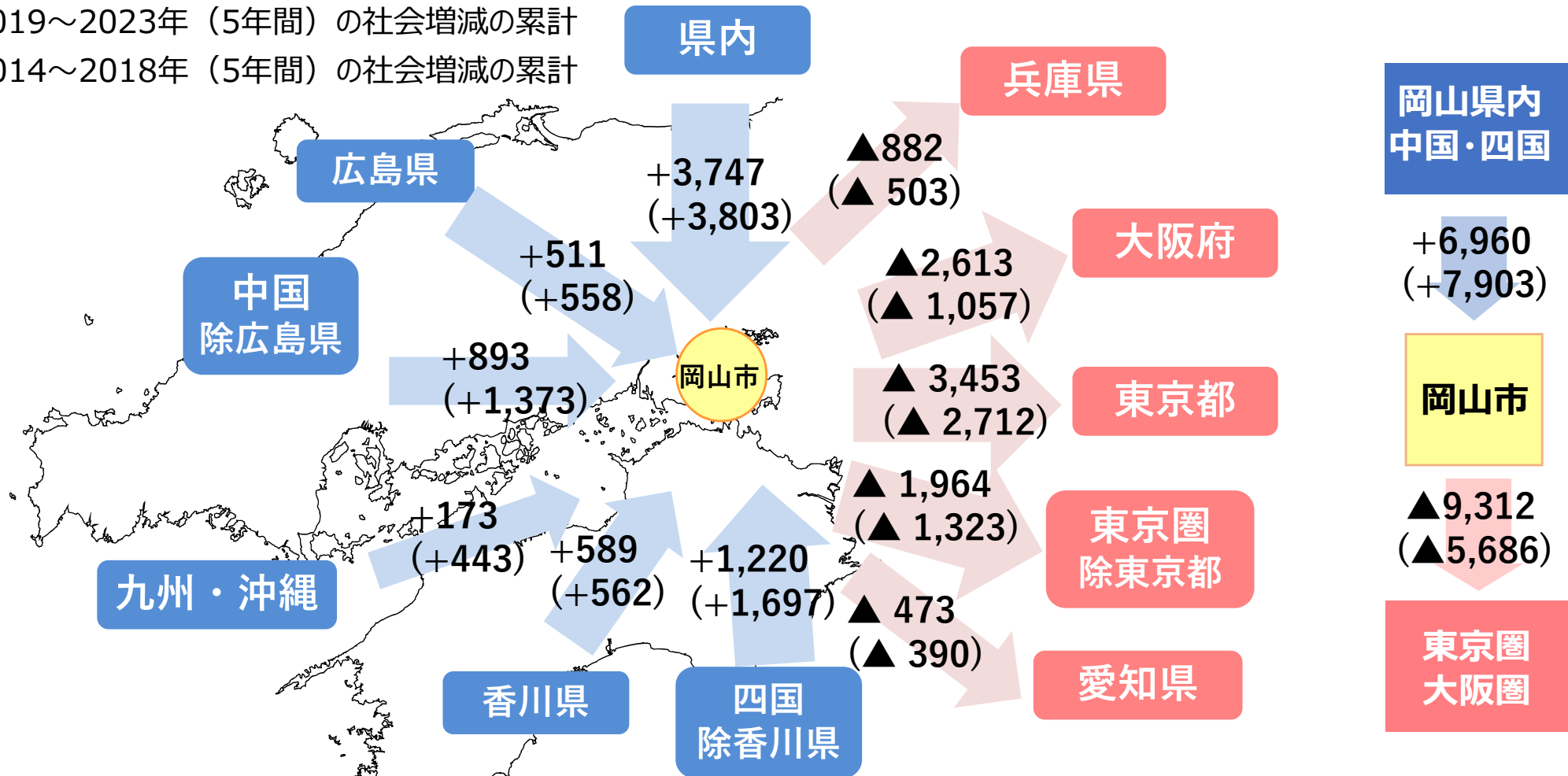
(注) 外国人含む総数

(資料) 総務省「令和2年国勢調査」

# 1. 人口 ④岡山市の社会動態 ②県内・県外別の転出入の状況

- 岡山市と県内市町村との間の社会動態は、2019～2023年の累計で3,747人の社会増となっており、2014～2018年と概ね同じ水準となっている。
- 県外との間の社会動態は、東京都に対して特に大幅な社会減となっており、東京圏全体では、2019～2023年の累計で5,000人以上が流出している。東京圏への社会減は、2014～2018年の5年間から、2019～2023年の5年間にかけて、さらに拡大している。
- また、東京都に次いで、大阪府に対する社会減も大きく、2019～2023年の累計で2,613人の社会減となっている。また、大阪府に対する人口流出は、2014～2018年の5年間から、2019～2023年の5年間にかけて、2倍以上に拡大している。

※上段2019～2023年（5年間）の社会増減の累計  
下段2014～2018年（5年間）の社会増減の累計



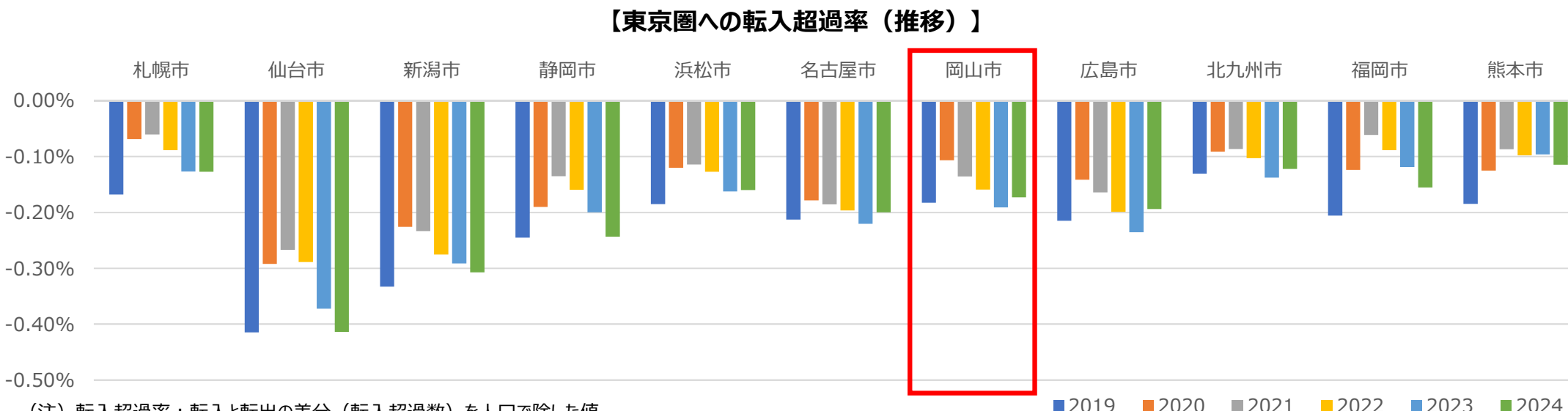
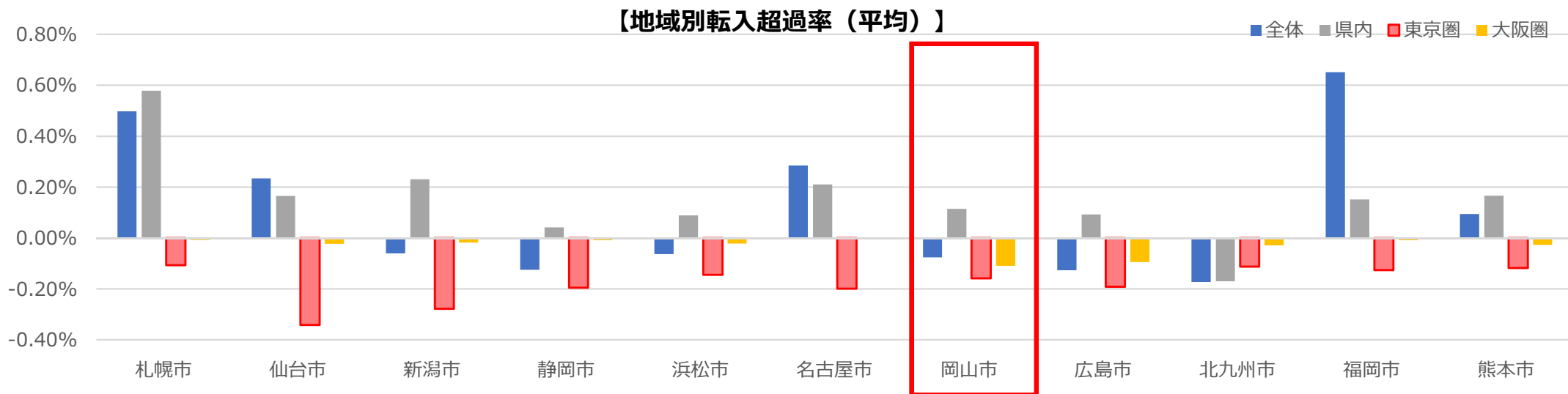
(注) データは前年10月～同年9月、日本人のみ  
東京圏…埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
中国…鳥取県、島根県、広島県、山口県

(資料) 岡山県「岡山県の人口の動き—岡山県毎月流動人口調査結果から」

# 1. 人口 ④岡山市の社会動態 ③大都市圏への人口の集中

- 東京圏・大阪圏を除いた指定都市間で、2019～2024年の県内・県外別の転入超過率を比較すると、「全体」では転入超過の市と転出超過の市があるものの、ほぼ全ての市で「県内」が転入超過になっており、「東京圏」「大阪圏」では転出超過になる傾向がみられる。
- 東京圏への転入超過率をみると、すべての都市で転出超過となっている。コロナ禍で見られた東京一極集中の緩和の流れもコロナ後の移動状況を見ると一時的な動きであったと見られ、引き続き一極集中の傾向が続いている。

## 指定都市（東京圏・大阪圏除く）の転入超過率（日本人）（2019～2024年）



(注) 転入超過率：転入と転出の差分（転入超過数）を人口で除した値

(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

# 1. 人口 ④岡山市の社会動態 ④若年層（5歳階級別）の転出入の状況

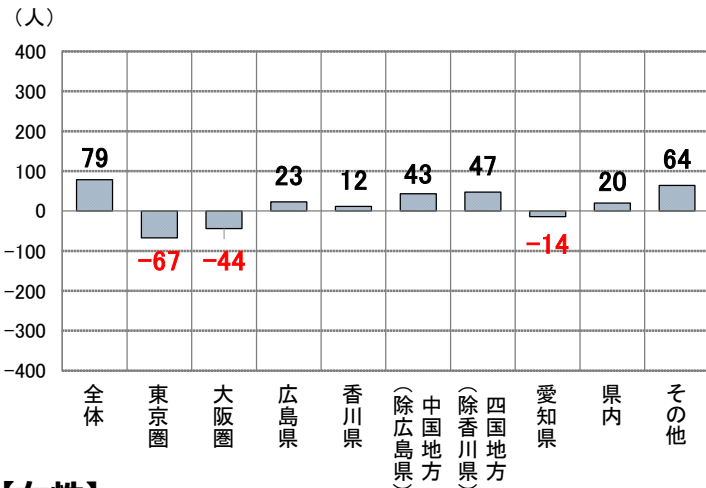
- 岡山市の若年層（15～29歳）の転出入の状況を5歳階級別にみると、就職の時期に該当する20～24歳で最も転出入の幅が大きい（移動の動きが大きい）。
- 転出入先別にみると、いずれの年齢階級でも概ね同様の傾向で、東京圏や大阪圏との間では転出超過になっている一方で、中国地方や四国地方との間では概ね転入超過になっている。

## 岡山市の若年層（5歳階級別）の転出入の状況（2019～2023年の平均値）

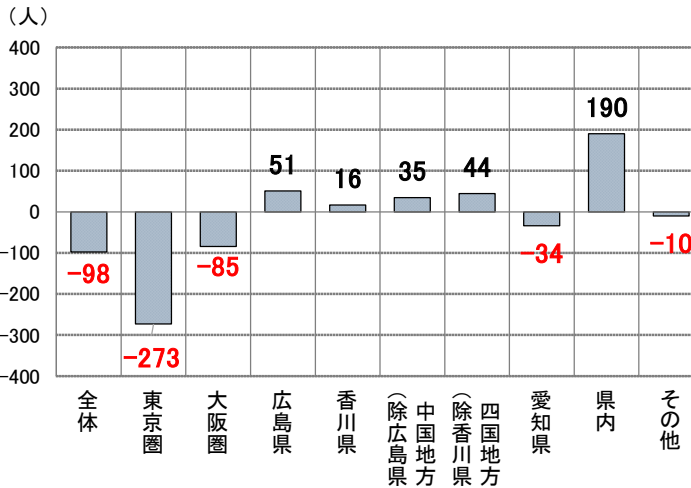
(注1) 日本人移動者の値  
 (注2) 「東京圏」は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県  
 「大阪圏」は大阪府、兵庫県、京都府、奈良県  
 (資料) 内閣官房「住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村詳細分析表」

### 【男性】

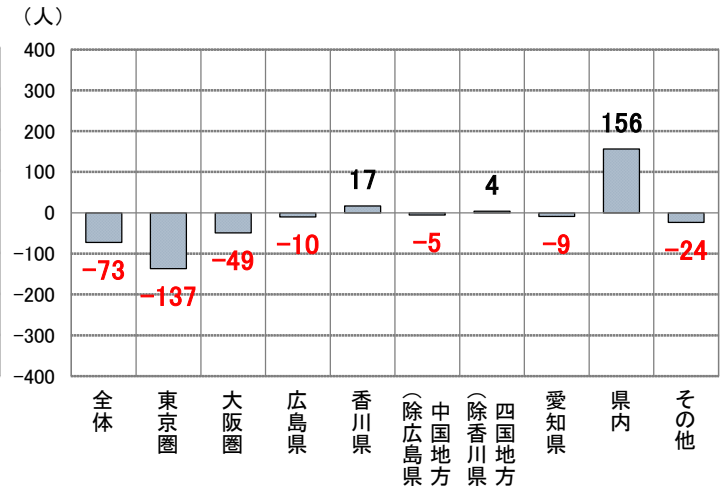
#### [15～19歳]



#### [20～24歳]

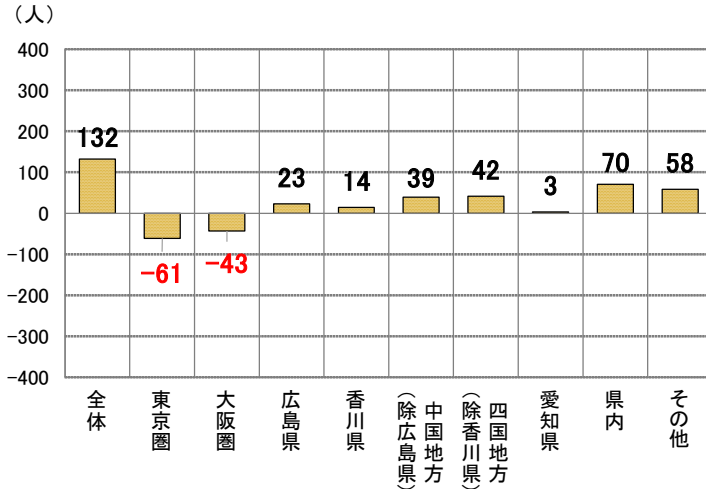


#### [25～29歳]

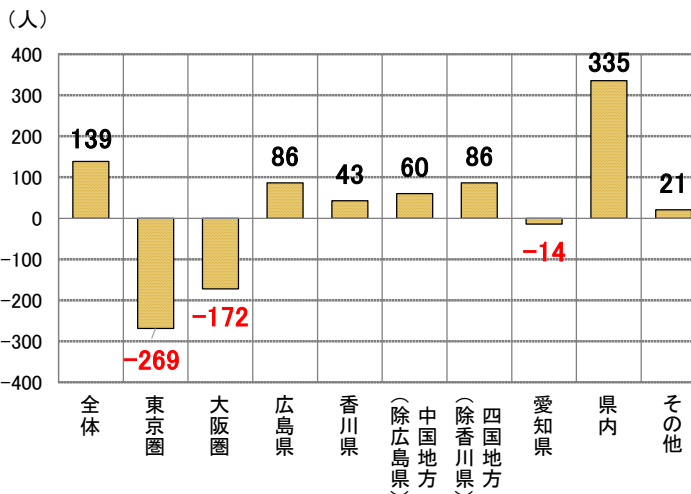


### 【女性】

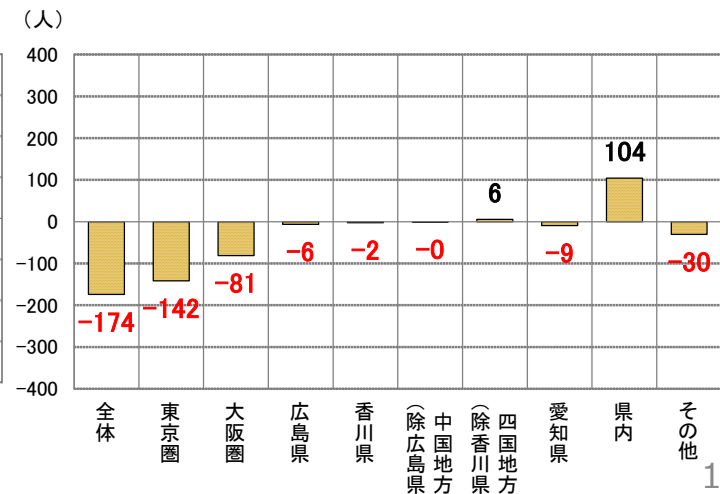
#### [15～19歳]



#### [20～24歳]



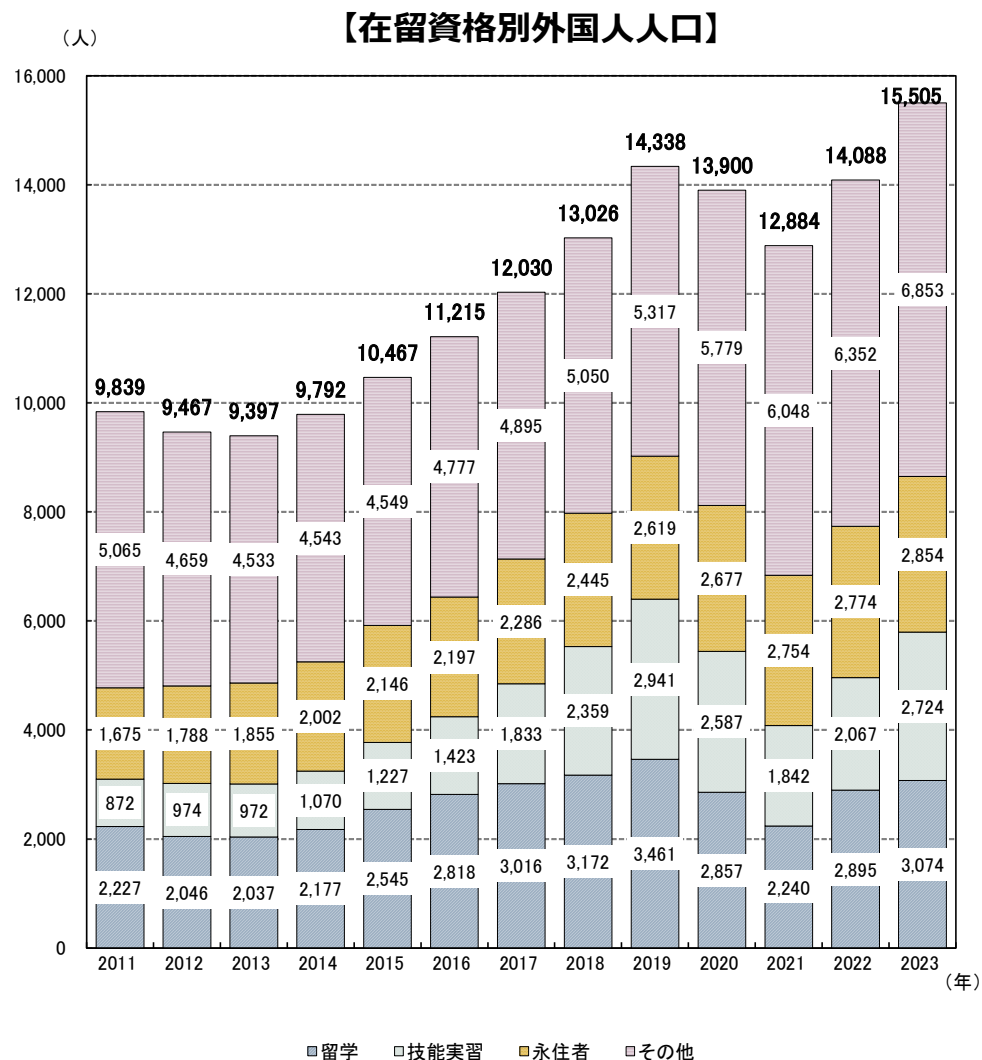
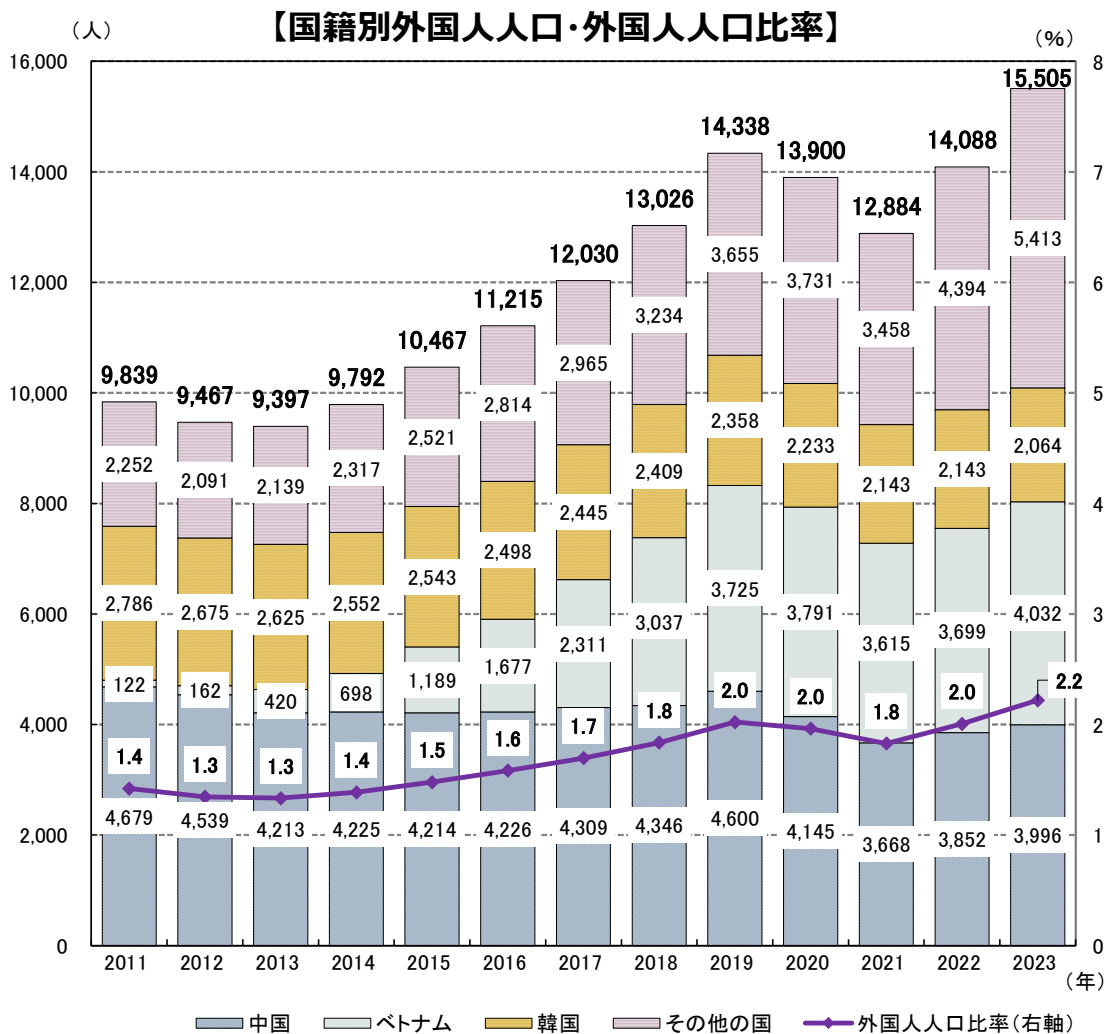
#### [25～29歳]



# 1. 人口 ⑤岡山市の外国人の人口動態 ①国籍・在留資格別人口

- 岡山市の外国人人口は、2013年から2019年にかけて一貫して増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う出入国制限等により、2019年から2021年にかけて、大きく減少したが、2022年には持ち直しがみられ、2023年には1.5万人を超過している。
- 国籍別にみると、中国、ベトナムが特に多くなっている。特にベトナムは2015年頃から、他の国籍と比べても大きな増加がみられる。
- 在留資格別に見ると、留学、技能実習、永住者が特に多くなっている。これらの在留資格の中でも、特に技能実習の増加が顕著である。

## 岡山市の外国人人口の推移

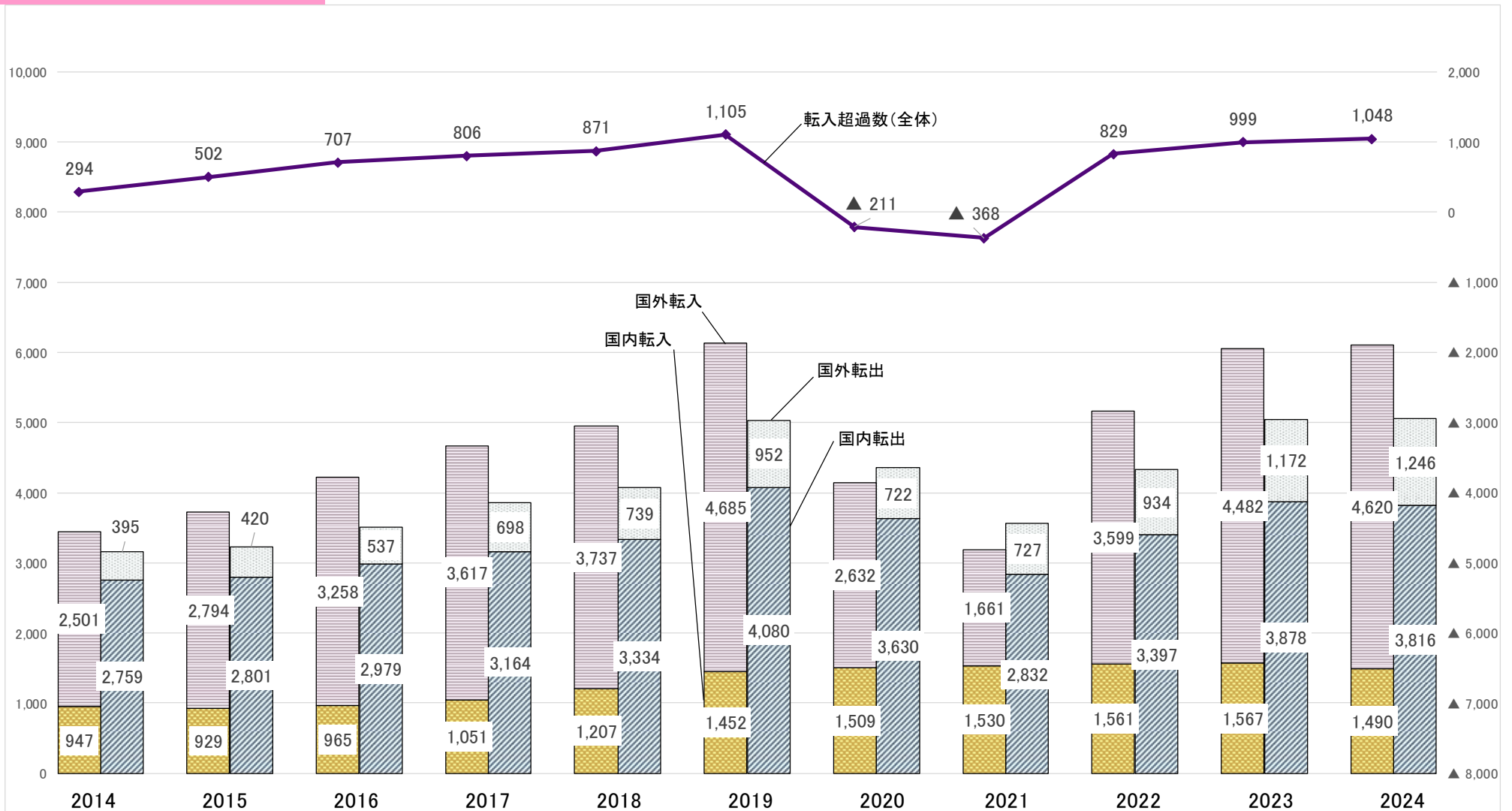


(注) 各年12月末時点  
(出典) 岡山市住民基本台帳

# 1. 人口 ⑤岡山市の外国人の人口動態 ②外国人の社会動態

- 岡山市の外国人の社会動態は2019年まで増加傾向。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年、2021年に大きな落ち込みが見られたが、2022年には大きく回復し、以降は概ね横ばいで推移している。
- 転出入先をみると、転入では国外からの転入が大きな割合を占めている一方で、転出では国内の他地域への転出の割合が大きくなっている。国外から転入した外国人は、市内に一定数留まりつつ、多くは岡山市から他地域へ移動している傾向がみられる。

## 岡山市の外国人の転入出の推移



(出典) 岡山県流動人口調査 ※転出(全体)には職権消除を含み、転入超過(国内移動のみ)には職権消除は含まない



## 2. 時代潮流

### 1. 少子高齢化・人口減少の加速

#### ①人口減少局面に突入

- 日本の総人口は2056年に1億人を下回る見込み。人口構造のアンバランスが拡大、東京圏への人口の一極集中が加速
- 岡山市の人口は、自然減が拡大し、既に**人口減少局面に突入**
- 高齢者人口は全国よりも緩やかに増加し、医療・福祉ニーズの増大が続く見込み
- 合計特殊出生率は全国よりも高い水準で推移するも、人口を維持する水準とは大きな隔たり
- 中長期的な生産年齢人口の減少により、地域の経済活動の縮小、地域活力への影響等が懸念

#### ②若者の大都市圏への転出超過が拡大傾向

- コロナ禍後に東京圏、大阪圏への転出超過が拡大傾向にあり、人口流出に歯止めをかけるため、**地域経済循環の活性化や、働きやすく、働きがいのある職場づくり**等が必要
- 生活の安全面や利便性の向上に加え、居心地の良さ、わくわく感、創造性、本物感など、多様な要素に溢れる、**質の高い都市環境づくり**や、一人ひとりの**チャレンジへの後押し**が求められている
- 圏域の中核都市である岡山市は、進学や就職の受け皿として、大都市圏への**人口流出を防ぐダム機能を発揮**する必要がある

#### ③人口の地域偏在の進行

- **各地域では、人口の偏在が進行**。地域ごとに人口構造の変化が異なることに留意し、関係人口を含め**多様な担い手の参画**を得て、地域の活性化と課題解決を図る必要がある
- **人口減少社会に適応した都市構造への転換**が求められている。地域とまちを繋ぐ公共交通ネットワークの充実や地域拠点の形成等を通じて、市民生活の質と都市の活力を将来に向けて維持していく必要がある
- まちなかは、圏域や市域全体の成長の「けん引役」として、交流・拠点機能の充実・強化が必要

### 2. ウェルビーイングへの関心の高まり

#### ①豊かさの物差しを見直す動きが加速

- 物質的な豊かさだけでなく、暮らしの質や精神的な充足感、健康などを含めた「**ウェルビーイング**」において**豊かさを捉えることへの関心が高まっている**

#### ②働く人の価値観やニーズの多様化

- ワーク・ライフ・バランスの重視など働く人の価値観やニーズが多様化しており、柔軟な働き方を選択できる、働きやすい職場環境づくりを促進する必要がある

#### ③人生100年時代への対応

- 「人生100年時代」が到来しつつある中、あらゆる世代がライフステージに応じて学び直しできる環境の充実が必要
- また、ポジティブ・ヘルス・オカヤマの実現に向けた取組の推進等により、市民一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮できる都市づくりが求められている

#### ④人中心の都市空間づくり

- 都市を車中心から**人中心の空間に変え**、人々が出会い、交流し、創造するといった、都市本来が持つべき機能を高め、経済交流の活性化、歩行量の増加による健康増進、地域コミュニティの強化等を進める必要がある

#### ⑤社会的なつながりの醸成

- 個人の幸福感には、人とのつながりの中で生まれる安心感や信頼感、相互支援の仕組みが不可欠であり、**人々の社会的なつながり（ソーシャルキャピタル）の一層の醸成**が求められている。文化・スポーツをはじめ様々な分野で、**多様な交流ができる場や機会**の充実や、伝統的な行事や祭りを通じて**人と地域が緩やかにつながる関係性の構築**を模索する必要がある

#### ⑥多様性に寛容な社会の構築

- 社会が成熟し多様化する中、年齢・性別・国籍・障害の有無など、一人ひとりが持つ違いを認め合い、自分らしく活躍できる、**多様性に寛容な社会**の構築が重要
- 社会環境の変化により、人と人とのつながりが希薄化し、コロナ禍により孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化。家庭や地域等で**望まない孤独・孤立を防ぐため**、地域共生社会の推進など**地域社会全体での対応**が求められている
- SDGsの根幹である「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した施策を一層推進し、**包摂的で多様性に富んだ地域社会を実現**することが求められている

## 2. 時代潮流

### 3. デジタル技術の急速な進展

- IoTやAI等のデジタル技術は急速に進展し、企業活動や人々の生活に大きな変革をもたらしつつある
- デジタル技術の有効活用は、場所や時間の制約を超えた活動を可能とし、人の暮らしをより豊かにするだけでなく、多様な地域課題の解決や新たな価値の創出への貢献が期待される
- 急速なデジタル化の進行によりデジタル人材の育成・確保が必要となっている。技術革新に適切に対応していくとともに、情報格差の解消への取組が必要
- 労働力を補完する観点からは、AIやロボティクスの活用による高効率化や高付加価値化の促進が必要。研究・教育機関が集積している強みをいかし、産学官連携や業種間連携によるイノベーションの共創に向けた取組も必要
- 住みやすく、活力のあるまちとして持続的に発展していくためにも、地域社会のDXや、市民サービスの向上、業務効率化など、スピード感を持ったデジタル化の推進が必要

### 4. グローバル化の進展

- デジタル技術の発展等により、「ヒト、モノ、カネ、情報」の流れが地球規模で拡大。一方、地政学リスクの高まりや記録的な円安の進行等により、経済の国際情勢の不確実性が高まっており、サプライチェーンの再構築など、経済の安全保障への対応が求められている
- インバウンドについて、コロナ禍からの回復の動きを確かなものとし、更なる増加を図るため、中四国地方の観光のハブとしての機能性を向上するとともに、地域全体の周遊促進につながるよう、他都市と連携して取り組む必要がある
- 外国人労働者や留学生等の海外からの人材の受け入れが増加する見通しであり、就労環境と生活環境両面から更なる多文化共生の推進が必要である
- ユネスコ創造都市ネットワーク等の海外諸都市とのつながりを活かしつつ、国際的な役割を発揮し、国内外での岡山市のプレゼンスの向上が求められている

### 5. 持続可能な環境の保全

- 気候変動や生物多様性の損失等の地球環境の悪化は、危機的状況にあり、環境問題の枠にとどまらず、経済・社会に大きな影響を与える問題として認識されている
- また、世界各国で産業・社会構造をグリーンエネルギー中心に転換し、脱炭素と産業競争力の両立を目指す、GXの実現に向けた動きが加速している
- 国は2020年に2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする目標を掲げ、岡山市も「ゼロカーボンシティ宣言」を行い2050年までの同目標達成に向けて各種取組を進めている
- 質の高い暮らしの基本となる豊かな自然環境を将来世代に引き継ぐためにも、SDGs・ESD活動の蓄積もいかして持続可能な社会を構築する必要がある。また、環境への取組を通じた企業価値の向上や投資の呼びこみなど、経済活動に目を向けた施策の推進も必要

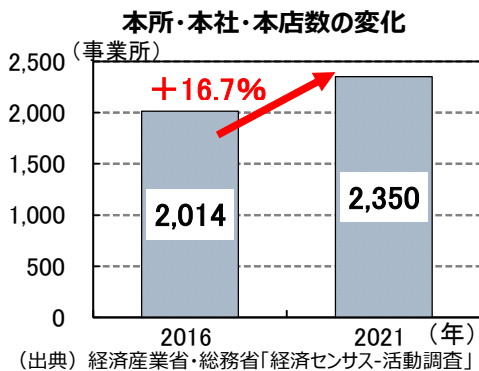
### 6. 大規模自然災害への対応

- 近年の急激な気候変動により、台風や豪雨等による風水害が激甚化している。岡山市に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」をはじめ、全国で記録的な大雨による大規模被害が頻発している
- 南海トラフ巨大地震については、令和6年8月に初めて臨時情報（巨大地震注意）が発表され、令和7年1月には、今後30年以内の発生確率が「70～80%」から「80%程度」に引き上げられるなど、発生の切迫性が高まっている
- 来るべき災害に備え、地域強靱化や流域治水の考えのもと、ハード・ソフト両面から総合的な防災・減災対策の一層の推進が求められている
- 道路や橋梁、上下水道等のインフラは、今後20年間で建設後50年以上が経過するものの割合が急増する見込であり、耐震化を含め戦略的な老朽化対策を行うことが求められている

### 3. 市の特性 ①岡山市の特性

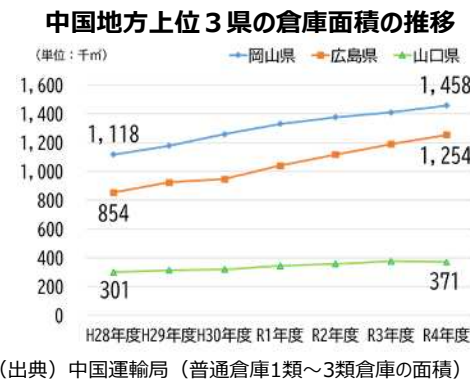
#### ①高次都市機能の集積

- 中四国を代表する都市として、商業・業務、医療・福祉等の高次の都市機能が集積。
- 近年、本所・本社・本店数が**16.7%増加**（2016年→2021年）中枢拠点性が高まっている。



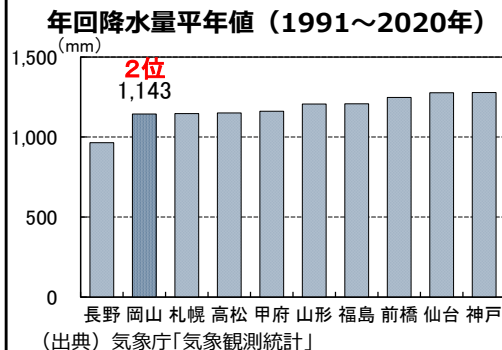
#### ②交通の広域拠点性

- 近畿と九州を結ぶ東西軸、山陰と四国を結ぶ南北軸の**広域交通の結節点**に位置する。
- 物流の拠点性が高まっており、**倉庫面積**は中国地方で**1位**。



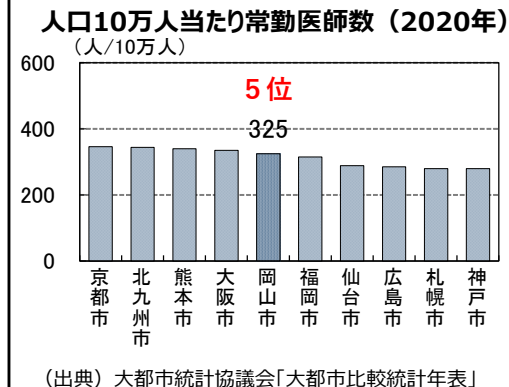
#### ③災害が少なく温暖な気候

- 市域が広く多様性に富んだ国土縮図型の指定都市
- 瀬戸内海式気候により年間を通して、気温や天気が安定。
- 都道府県の気象官署の中で、**2番目に降水量が少ない**。



#### ④豊富な医療・介護資源

- 医療施設や障害者福祉施設、老人福祉施設が多く立地。
- 人口当たり医療施設常勤医師数**は指定都市の中で**5位**。

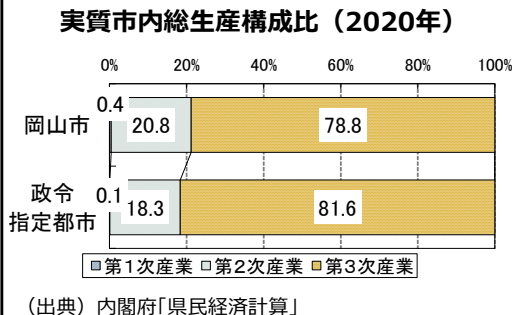


#### ⑤歴史・伝統・文化

- 古墳、城跡、灌漑遺産など数多くの歴史・伝統・文化を有する。国指定史跡は**指定都市で京都市に次いで2番目に多い**。
- 2023年、「ユネスコ創造都市ネットワーク」に、**文学分野に日本で初めて加盟**。
- 2023年、市民の文化芸術活動の拠点となる、岡山芸術創造劇場ハレノワがオープン。県外からの来場者も多く訪れており、目的地としての岡山の存在感が高まっている。

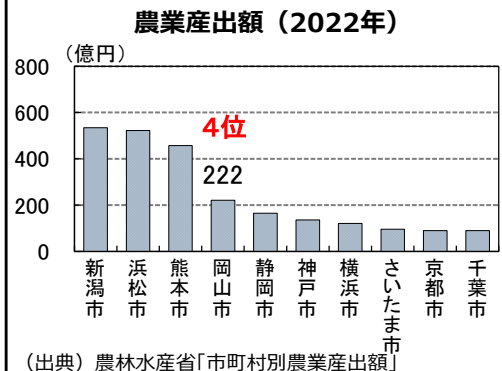
#### ⑥バランスの取れた産業構造

- 指定都市は、市内総生産に占める第1次、第2次産業の割合が低い傾向にある。
- 岡山市は第1次、第2次産業の割合がやや高く、第1次産業は約4倍、第2次産業は約1.1倍の構成比となっている。



#### ⑦全国有数の農業都市

- 白桃やマスクットをはじめとする果実や、野菜、花きなど、多様な農業が営まれている。
- 農業産出額**は指定都市の中で**4位**（全国市町村の中で67位）。



#### ⑧活発な地域活動、ESDの取組

- 各地域では民生委員、地縁組織による活発な地域活動が蓄積
- 2014年開催の「ESDに関するユネスコ世界会議」では、公民館を拠点に地域が連携する「**ESD岡山モデル**」が高く評価。2017年には「ユネスコ学習都市賞」を受賞
- 2018年には国の**SDGs未来都市の1つに選定**された。
- 2025年3月時点で、岡山ESD推進協議会には、産学官民の395団体・機関が所属。多様な担い手を巻き込んだ取組を推進。

### 3. 市の特性 ②指定都市比較

- 岡山市と他の指定都市を比較すると、生活費の安さや、教育・文化・医療環境が充実し、子育てと仕事との両立がしやすい環境にあるなど、生活する場としての岡山市の強みが見えてくることから、子どもから高齢者まで安心して暮らすことができるまちであるといえる。
- また、市内総生産等の経済指標の伸び率が高く、都市としての成長が伺える。

#### 指定都市と比較した岡山市の特性

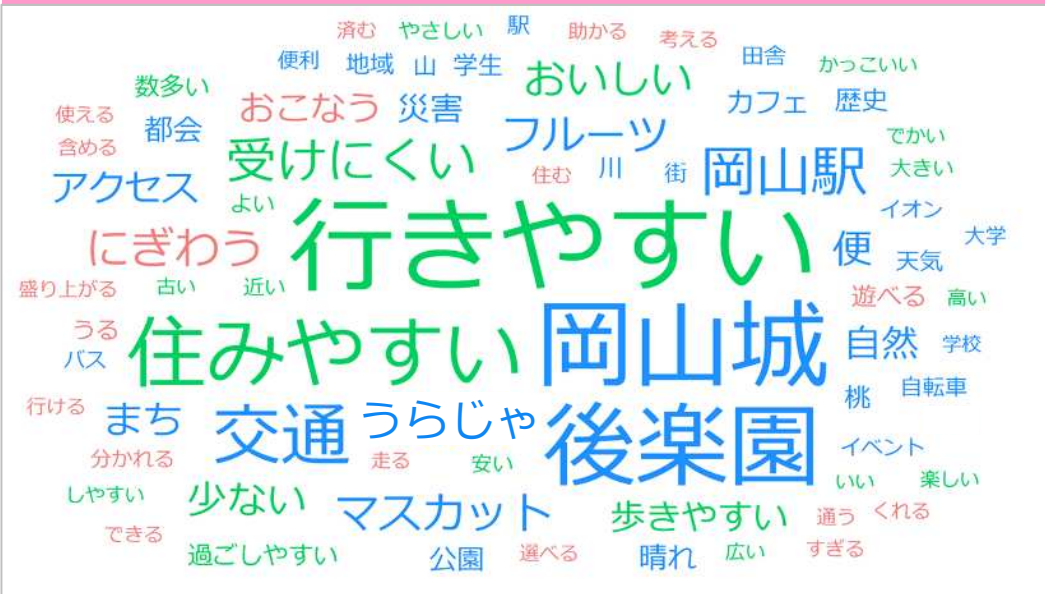
分類		特性
暮らしやすさ	市民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者物価地域差指数が低い【2位】、民営賃貸住宅の家賃が安い【6位】 ⇒生活費の面で優位性</li> <li>人口当たりの、大学数【2位】、公立図書館の図書冊数【1位】、博物館数【4位】、体育施設数【6位】が高い ⇒教育・文化施設が充実</li> </ul>
	人材・労働環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>M字カーブの谷に当たる35～39歳女性の労働力率が高く【6位】</li> <li>男性の育休取得率も高い【3位】</li> <li>合計特殊出生率が高い【4位】</li> <li>健康寿命は、女性は平均的な水準【12位】だが、男性はやや平均を下回る【14位】</li> <li>人口当たりの高齢化率【10位】、65歳以上の労働力率【11位】は平均的な水準</li> <li>人口当たりの大学学生数が多い【6位】 ⇒若者をはじめ多様な担い手が存在</li> <li>人口当たりNPO法人数がやや多い【6位】</li> <li>人口当たりの外国人割合は平均的な水準【13位】</li> </ul>
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口当たり医師数【2位】及び病院数【4位】が多い ⇒医療環境が充実</li> <li>人口当たりの交通事故発生件数【11位】、刑法犯認知件数【11位】は平均的な水準</li> <li>上水道耐震適合率が低い【15位】</li> </ul>
都市の活力	地域経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年から2021年にかけての市内総生産の伸び率が高い【3位】（※）</li> <li>同期間の市内総生産における民間投資額の伸び率が高く【2位】</li> <li>特に企業設備投資の伸び率が高い【2位】（※）</li> </ul> <p style="text-align: right;">⇒高い成長率を示している</p> <p style="text-align: right;">（※）市内経済計算を公表している比較可能な16都市との比較</p>
	都市環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>市域が広く、DID人口密度が低い【16位】</li> <li>保有自動車台数が多く【3位】、自動車のみでの通勤・通学者の割合が低い【18位】</li> </ul> <p style="text-align: right;">⇒自動車前提の都市構造からの転換が必要</p>

## 4. 市民意見聴取結果等 ①ワークショップ結果

### 【若者100人ワークショップ】

- 次代の岡山を担う若い世代を対象に、岡山市の特性（お宝）や、理想のまちの姿と、そのために必要な取組等について意見を聴取（R6.10.20実施）
- 高校生から概ね40歳までの76名が参加し、10グループに分かれて意見交換（10代:22名、20代:47名、30代以上:7名）  
※各班のファシリテーターとして大学生13名が参加。

#### テーマ①「岡山市のお宝ってなに？（特性）」



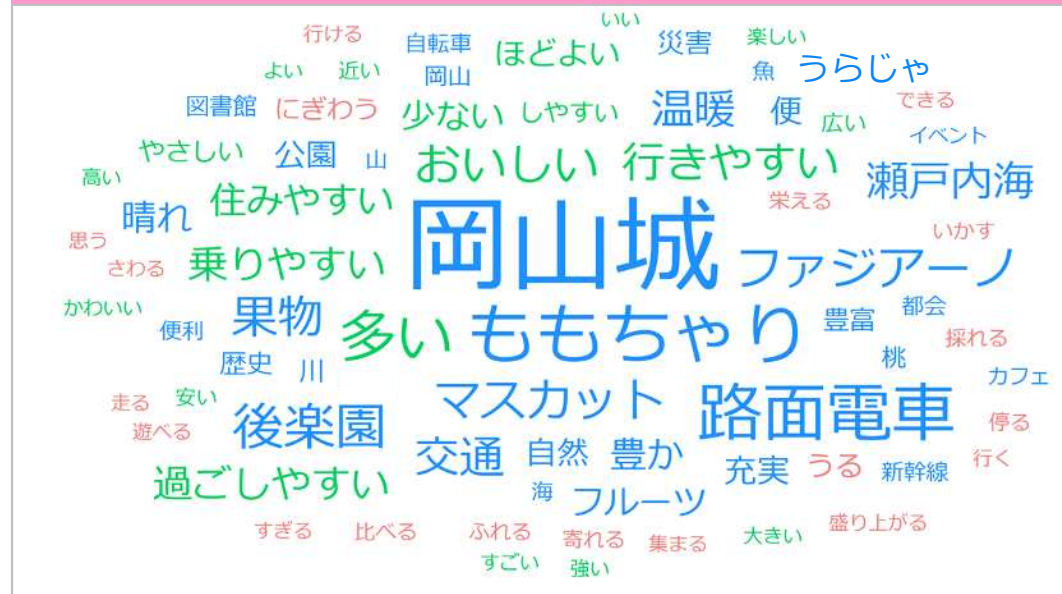
#### （コメント補足）

- 行きやすい : ○○に行きやすい  
(どこでも、大阪・東京、山陰、四国など)
- 少ない : ○○が少ない  
(災害、地震、雨が降る日、坂 など)
- 受けにくい : 災害の被害を受けにくい

### 【岡山市まちづくりワークショップ】

- 幅広い年齢層・属性の市民を対象に、岡山市の特性（お宝）や、理想のまちの姿と、そのために必要な取組等について意見を聴取（R6.11/16,11/17,12/14,12/15 計4回実施）
- 高校生から70歳以上までの64名が参加し、4,5名のグループに分かれて意見交換（10代:20名、20代:14名、30代:7名、40代:6名、50代:2名、60代:9名、70代:5名）

#### テーマ①「岡山市のお宝ってなに？（特性）」



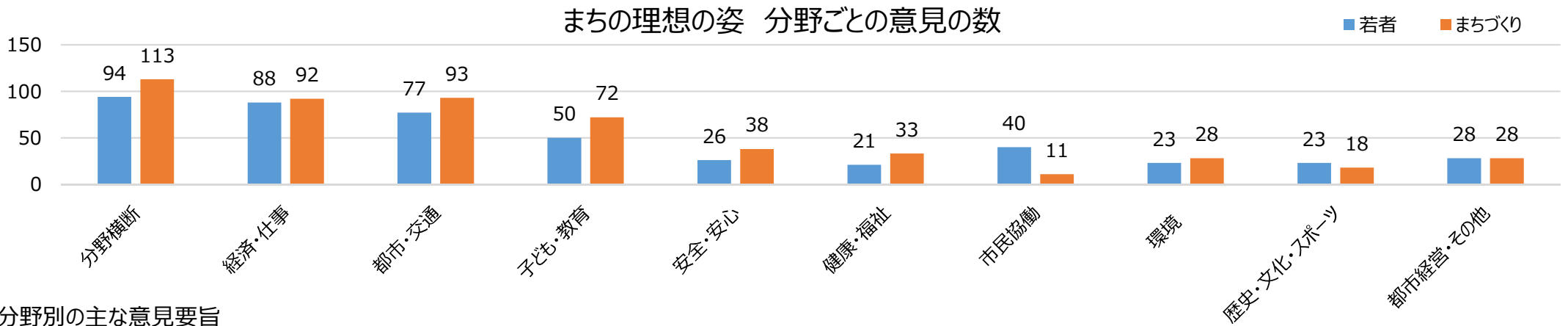
#### （コメント補足）

- おいしい : 食べ物、フルーツ、魚、野菜、水 など
- 多い : 大学、医療機関、文化施設、美術館 など
- 少ない : 災害、地震 雨など
- 行きやすい : 県外、旅行 など
- 乗りやすい : 自転車

(注) 本分析では、単語の単純な登場回数に加えて、一般的な単語（「思う」「ある」等）と特徴的な単語とで重みに軽重を付けて点数化するテキストマイニングの手法を用いており、より点数の大きい単語のサイズが大きく表示されている。

## 4. 市民意見聴取結果等 ①ワークショップ結果

テーマ②「岡山市がどんなまちだったら住みたい・住み続けたい？」（理想のまちの姿）→テーマ③「住み続けたいまちにするためには？」（必要な取組）



分野別の主な意見要旨

分野		どんなまちだったら住み続けたいか	住み続けたいまちにするために必要な取組
分野横断	賑わい・活気、まちへの誇り	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルシェなどイベントが盛んで、休日の選択肢が多いまち</li> <li>地域イベントが盛んで、多様な年代と交流し、つながるまち</li> <li>スポーツや音楽など大きなイベントが開催できる会場のあるまち</li> <li>周囲から憧れられる、自慢できる魅力あるまち</li> <li>流行の先端に行く、おしゃれなまち（若）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・若者・高齢者などの全世代が交流できるイベントの開催</li> <li>イベントへの地域住民や学生ボランティアの参加促進（若）</li> <li>大規模会場の整備と世界的アーティストのライブ開催</li> <li>流行や新たなアーティストを生み出す、新しいものにすぐに触れられる環境づくり</li> </ul>
	つながり・交流、住みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつが気軽にでき、思いやりと助け合いが多いまち</li> <li>子ども・若者と高齢者など、世代を超えた交流のあるまち</li> <li>心に余裕があり、価値観を認め合え、いきいきとしているまち</li> <li>どんな人にも住みやすい、温かくやさしいまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民同士の交流を増やすことによる地域コミュニティの強化</li> <li>家と学校・職場以外の居場所（サードプレイス）づくり</li> <li>安全・安心の確保と経済的な安定の両方による生活の充実</li> <li>誰もが買い物や移動に困らないための支援や、助け合いの促進</li> </ul>
経済・仕事		<ul style="list-style-type: none"> <li>就職の選択肢が多く、多様な働き方ができるまち</li> <li>起業や転職など、やりたいことにチャレンジしやすいまち</li> <li>娯楽施設が多く、買い物以外でも一日中遊べるまち（若）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモートワーク、副業の推進、大企業や最先端企業などの誘致</li> <li>ベンチャー・起業家育成、起業支援などチャレンジを応援</li> <li>若者向けのスポットやカフェ、娯楽・商業施設の拡充（若）</li> </ul>
都市・交通		<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通が充実し、車がなくても暮らし続けられるまち</li> <li>教育・商業・医療・福祉が集まったコンパクトなまち</li> <li>大きな公園や広場が充実し、自然が多く、まち歩きを楽しめるまち（若）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>増便や利用環境の整備等による公共交通の充実（若）</li> <li>生活に必要な要素が15分圏内にある生活圏の創出</li> <li>道路や街なかに緑や花を増やし、自然豊かな都市環境の創出（若）</li> </ul>
子ども・教育		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを預ける場所が充実しており、共働きしやすいまち</li> <li>子育て支援が充実し、多様な交流もあり不安のないまち</li> <li>多様な教育と学習支援が充実しており、学びの機会が広がるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童、企業内託児、病児保育などの子どもを預かる施設の充実</li> <li>子育て世帯の交流促進や金銭的負担の軽減</li> <li>自習スペースの整備、外国語教育の強化</li> </ul>

（若）は若者100人ワークショップで出た特徴的な意見を示す。

## 4. 市民意見聴取結果等 ①ワークショップ結果

テーマ②「岡山市がどんなまちだったら住みたい・住み続けたい？」（理想のまちの姿）→テーマ③「住み続けたいまちにするためには？」（必要な取組）

分野別の主な意見要旨（続き）

分野	どんなまちだったら住み続けたいか	住み続けたいまちにするために必要な取組
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災が確立され、災害時に助け合えるまち</li> <li>犯罪が少なく、安全で安心して暮らせるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントや講座を通じた防災意識の向上</li> <li>夜間の治安維持のための街灯の設置、用水路転落防止の充実</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した医療・福祉で安心して年がとれるまち</li> <li>高齢者や障がいのある方も快適でいきいきと活躍できるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関・介護サービスの充実と人材確保</li> <li>高齢者・障害者の支援と地域のつながり強化</li> </ul>
市民協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見が言いやすく、みんなでまちづくりを進めるまち(若)</li> <li>国際交流が活発で、外国人にも暮らしやすい共生社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアへの参加など、地域活動への積極的な参加(若)</li> <li>国際フェスティバルや交流会などの開催</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>山や川など自然が豊かで、生きものと共存するまち</li> <li>太陽光発電やEVなどカーボンニュートラルに取り組むまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが清掃ボランティアに参加したくなる工夫(若)</li> <li>断熱・省エネ住宅への補助など省エネ推進</li> </ul>
歴史・文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史を大切にし、伝統文化が継承されるまち</li> <li>スポーツ施設が充実しており、スポーツが溢れるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化の継承支援、地域の歴史資産の活用</li> <li>アリーナやサッカースタジアムを中心にしたまちづくり</li> </ul>
都市経営・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政と市民の距離が近いまち</li> <li>桃太郎以外に魅力のあるまち(若)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の意見を行政に伝えるツールの開発</li> <li>SNS等を活用した岡山市の魅力の発信の強化(若)</li> </ul>

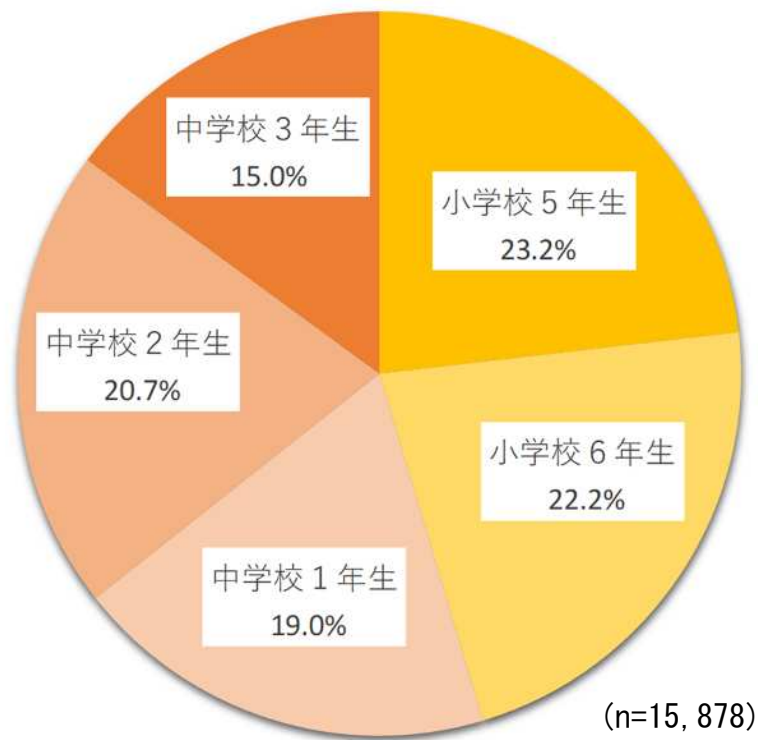
### 全体要旨

- 感性的な満足度を求める意見が多く、美しい街並みの中で多様な人々とのリアルな交流ができ、様々な気づきや発見を得られるまちが求められている。
- 心のゆとりや温かさ、やさしさ、寛容性等を重視しており、世代を超えた人々のつながりの醸成、共感の創出が求められている。若者はイベント企画への参加意欲も高く、次代を担い手である若者の声を聴く機会や参加の機会を増やしていくことが求められている。
- 多様な働き方ができ、イベントが活発など休日の選択肢も多く、公共交通や子育て環境が充実しているワークライフバランスの充実したまちが求められている。起業や転職など、やりたいことへのチャレンジを後押しする環境の充実が求められている。
- 豊かな自然、歴史、文化を大切にしながら、生活利便性が高く、安心していきいきと暮らせるまちが求められている。

## 4. 市民意見聴取結果等 ②小中学生アンケート結果

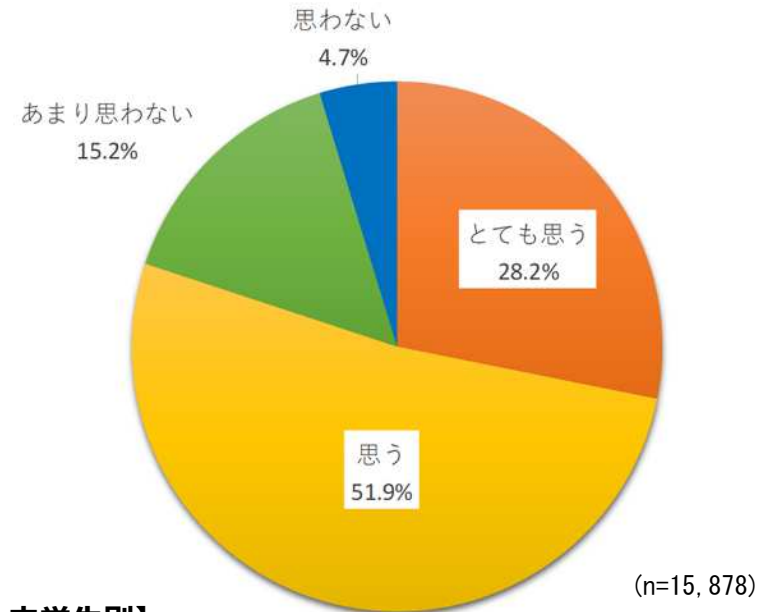
- 次期総合計画の策定に向け、未来を担う子どもたちからの多様な意見把握を目的として、今後のまちづくりに関するアンケート調査を実施した。
- 調査対象は、岡山市立小学校・中学校に通う、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒で、合計15,878名からの回答を得た。回答者の属性（学年）については以下のグラフの通りである。
- 「大人になってからも岡山市に住み続けたいと思うか」について聞いたところ、「思う」（51.9%）の割合が最も高く、次に「とても思う」（28.2%）、「あまり思わない」（15.2%）、「思わない」（4.7%）となっている。小学生・中学生別にみると、小学生に比べ、中学生の方が「あまり思わない」「思わない」と回答した割合がやや高くなっている。

回答者の属性（学年）

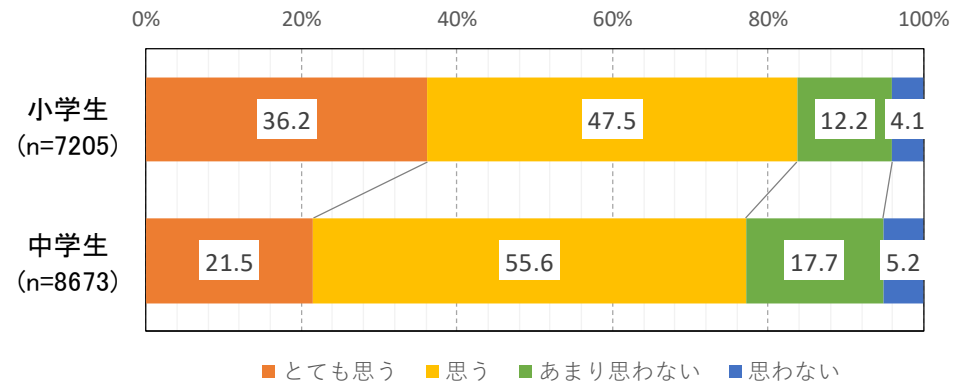


大人になってからも岡山市に住み続けたいと思うか

【全体】



【小学生・中学生別】





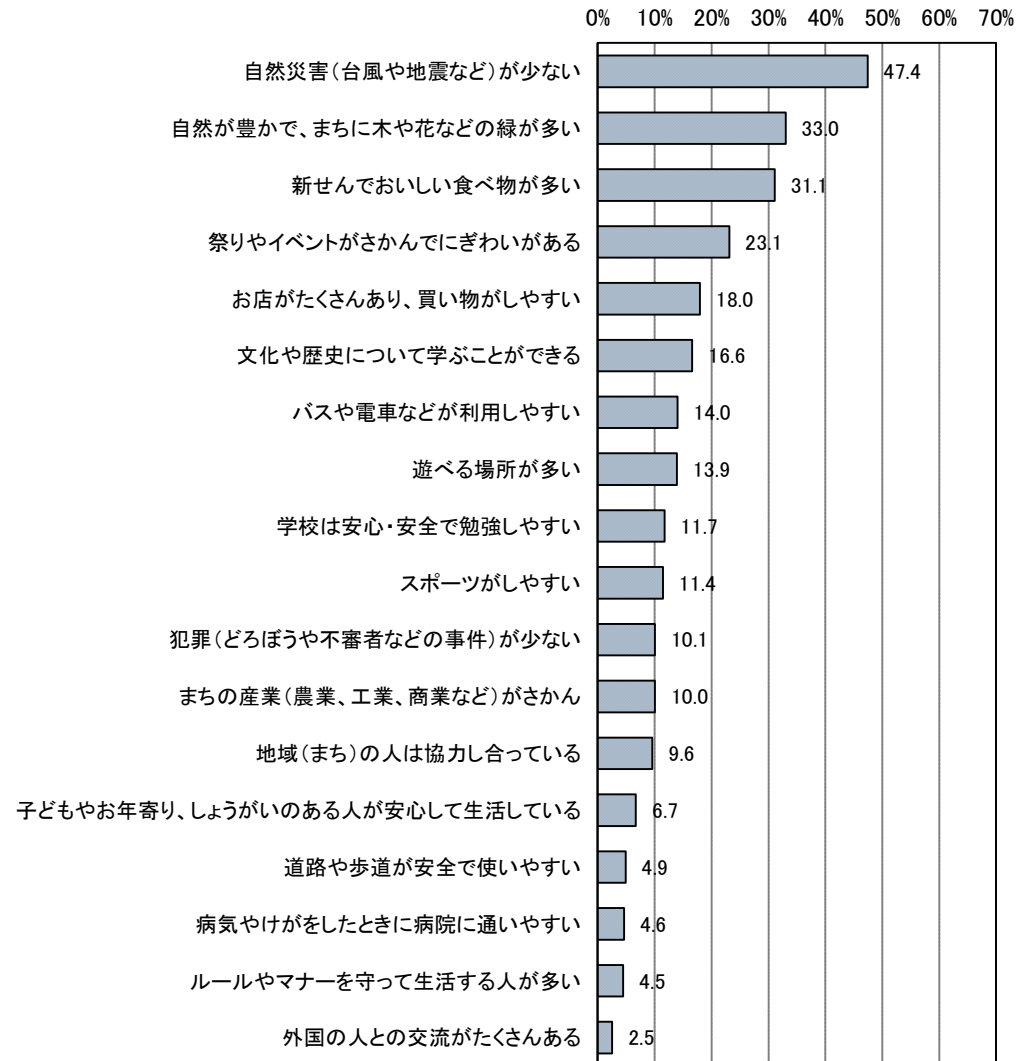
## 4. 市民意見聴取結果等 ②小中学生アンケート結果

○岡山市に初めて来た人に紹介したい、岡山市の良いところや自慢できることについて、3つまで聞いたところ、「自然災害（台風や地震など）が少ない」の割合が最も高く47.4%となっている。次いで、「自然が豊かで、まちに木や花などの緑が多い（33.0%）」、「新せんでおいしい食べ物が多い（31.1%）」、「祭りやイベントがさかんでにぎわいがある（23.1%）」となっている。小学生、中学生別にみても、若干の違いがあるものの同様の傾向となっている。

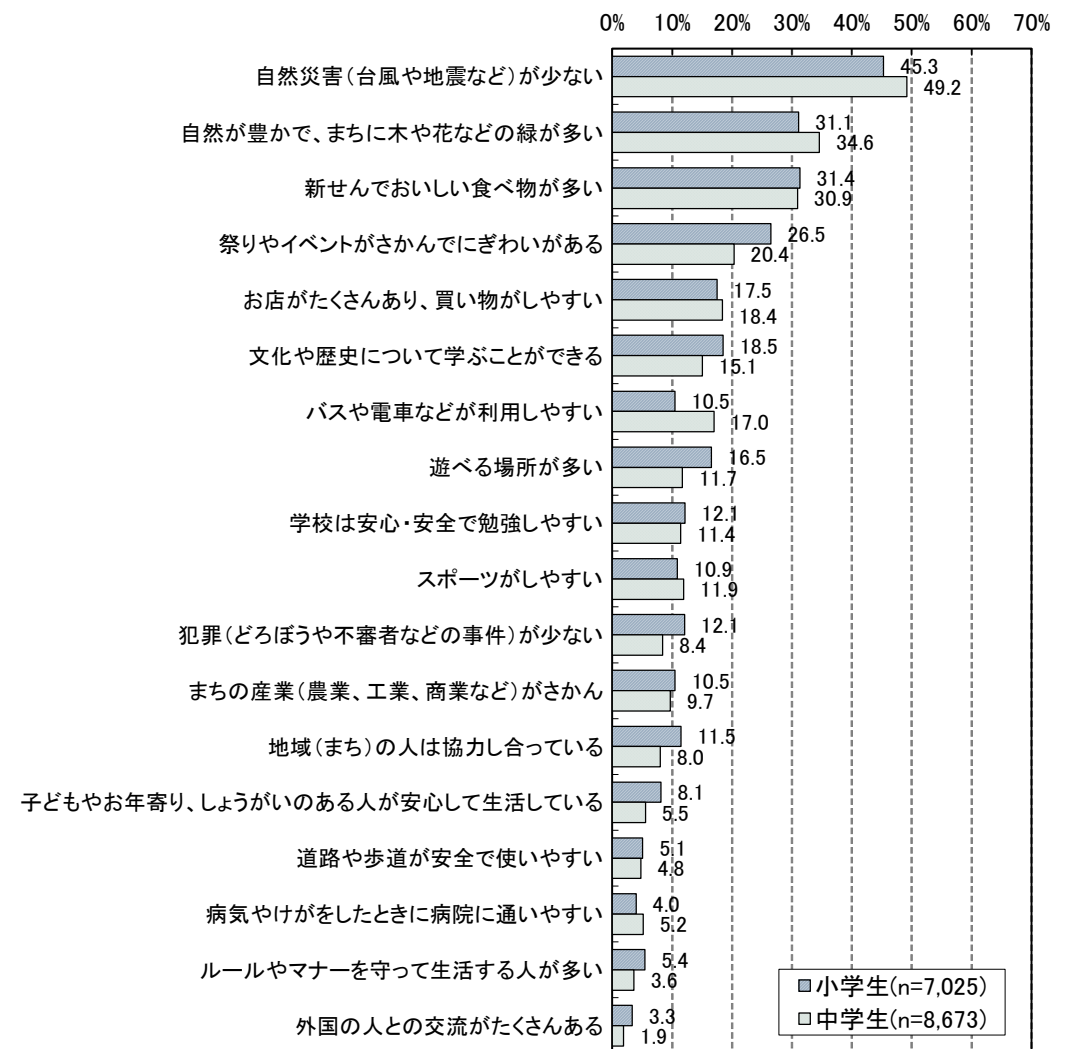
### 岡山市に初めて来た人に紹介したい、岡山市の良いところや自慢できること

#### 【全体】

(n=15,878)



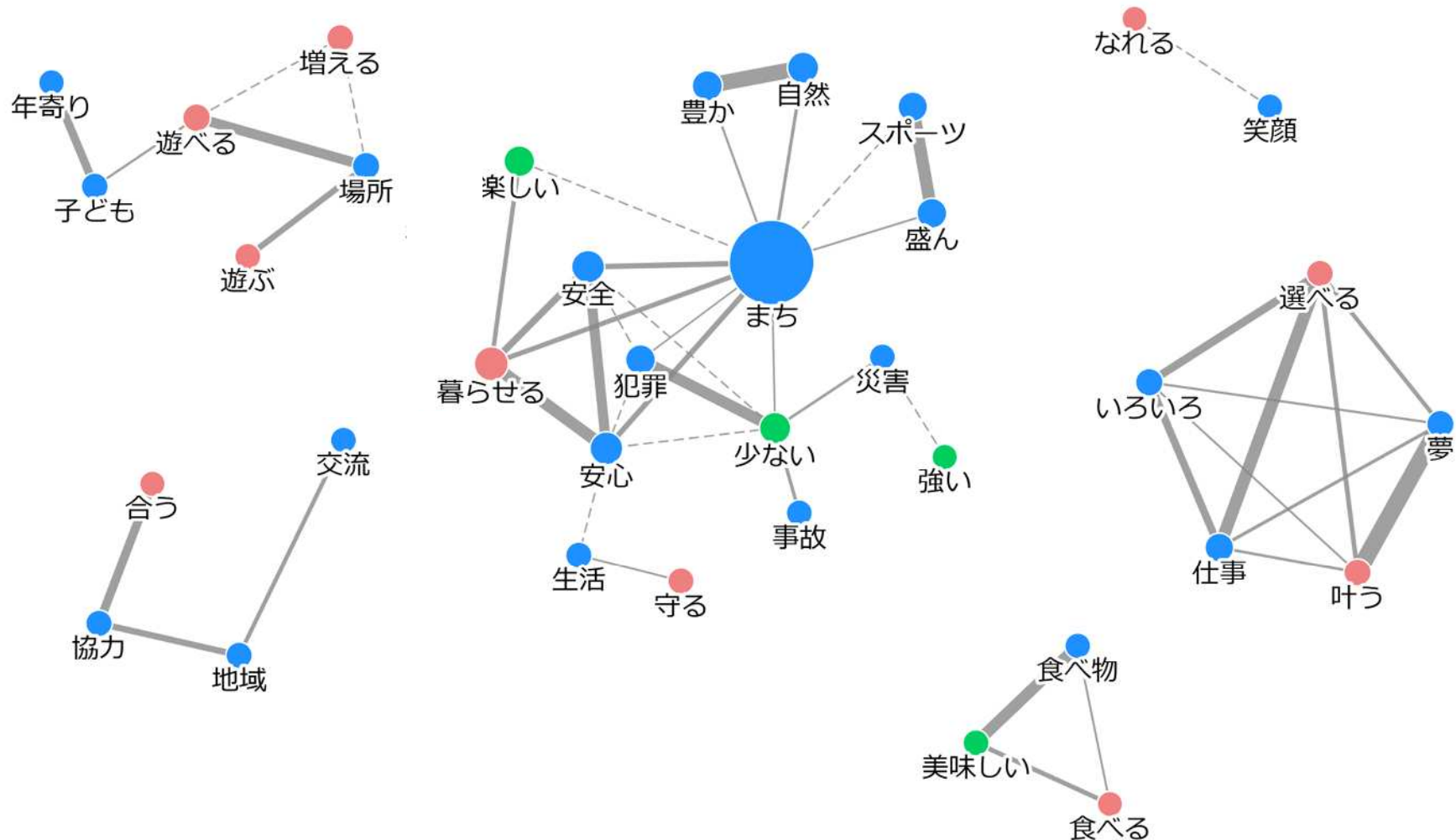
#### 【小学生・中学生別】



## 4. 市民意見聴取結果等 ②小中学生アンケート結果

- 自由記述方式で「大人になったとき、岡山市がどんなまちになってほしいか」を尋ね、共起ネットワークと呼ばれる単語のつながりを可視化する手法を用いて分析を行った。
- 「まち」を中心として、「スポーツ」と「盛ん」、「自然」と「豊か」、「安全」と「安心」、「少ない」と「犯罪」、「災害」などがつながっており、「スポーツが盛ん」や「自然が豊か」、「安全・安心」というイメージが想起される。
- 「仕事」や「夢」、「選べる」、「叶う」といった単語がつながりを持っており、「夢が叶い、いろいろな仕事を選ぶことができる」といったイメージが想起される。
- 「交流」、「地域」、「協力」、「合う」がつながっており、「地域で交流や協力し合う」といったイメージが想起される。

### 大人になったとき、岡山市がどんなまちになってほしいか



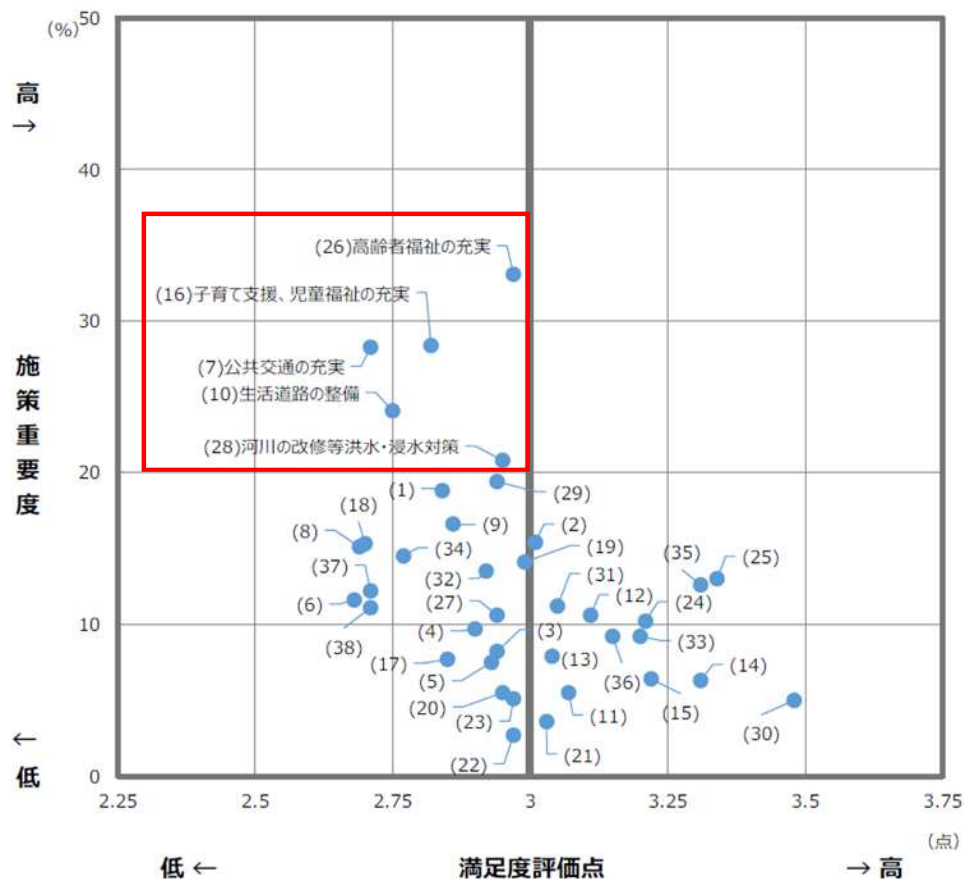
(注) 共起ネットワークは、多くの自由記述の中から、出現頻度の高い単語や、つながりの強い単語（共起関係にある単語）を抽出し、それらの関係性を視覚的に表現する手法である。

## 4. 市民意見聴取結果等 ③岡山市市民意識調査の分析

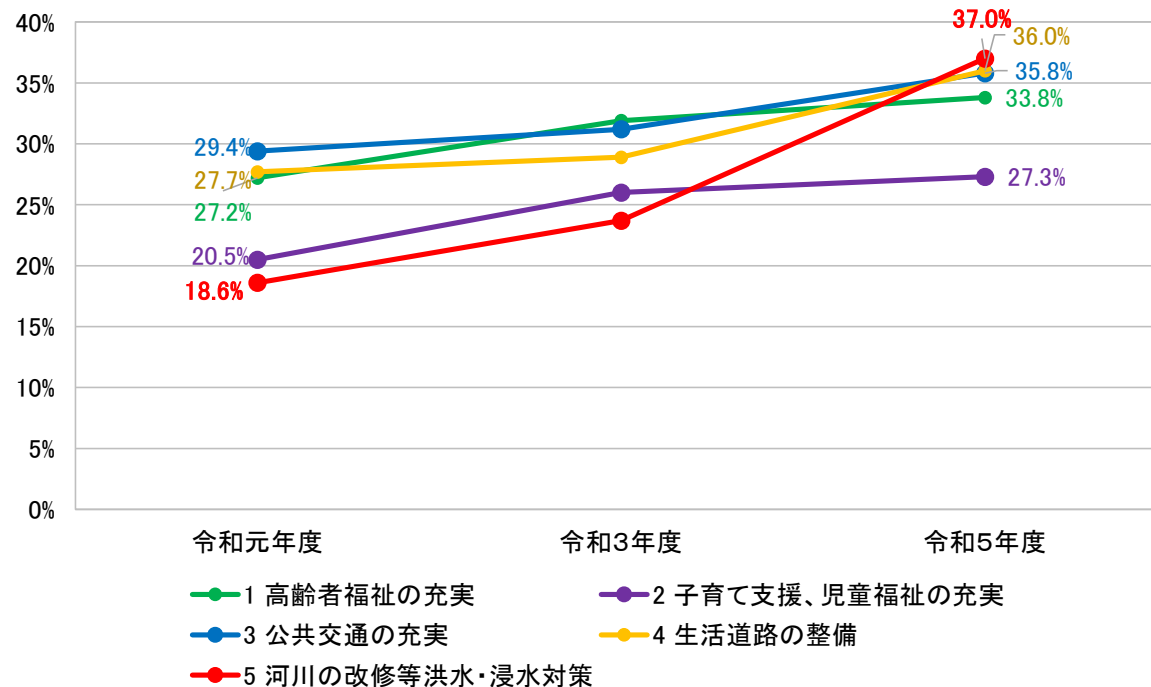
- 令和5年度の市民意識調査における施策の満足度・重要度の関係を見ると、「(26)高齢者福祉の充実」「(16)子育て支援、児童福祉の充実」「(7)公共交通の充実」「(10)生活道路の整備」「(28)河川の改修等洪水・浸水対策」などが、施策重要度が高く、満足度評価点の低い施策となっている。
- 令和5年度の市民意識調査で重要度が高い施策（上位5施策）について、満足度の経年変化をみると、いずれの施策も概ね上昇傾向にあり、特に「河川の改修等洪水・浸水対策」については、満足度の大きな上昇がみられる。

### 令和5年度における施策に対する評価・重要度が高い施策（上位5施策）に対する満足度の変化

#### 施策に対する評価（令和5年度）



#### 重要度が高い施策（上位5施策）に対する満足度の変化



- (注1) 令和5年度の市民意識調査は、重要度が高いと考える施策（特に力を入れてほしい施策）を5つまで回答する方式。施策名称の前の数字は順位。
- (注2) 調査実施年度によって施策名称の表現や施策数が異なるため、単純比較はできないことに留意が必要だが、ここでの分析は、直近で重要度が高い施策分野の満足度の変化を確認することを目的としている。